



圧倒的なシンプルさで、先生の授業アイデアを実現する
授業支援クラウド

授業実践事例 & 活用法

— 小学校・中学校用 —

2020

Vol.1



授業実践事例 & 活用法

— 小学校・中学校用 —

2020

Vol.1

Contents

06 テスト成績が目ざましく伸びた

日本大学高等学校・中学校

08 英語 4 技能のテスト成績を伸ばす方法

立命館守山中学校・高等学校 辻 大樹教諭

11 新学習指導要領「主体的・対話的な深い学び」にピッタリ！

12 シンプルで使いやすい機能

13 ロイロノート・スクールの活用法

16 ロイロノート流 おすすめポートフォリオ術「LOPP」

小学校

18 2 年 体育 つくろう！ABC ダンス

新潟大学教育学部附属新潟小学校 小野 浩由教諭

20 2 年 英語 自分たちでオリジナル絵本を作ろう

京都市立向島南小学校 堀川 紘子教諭

22 3 年 音楽 旋律の特徴を感じとろう ～メヌエット～

New!

萩市立育英小学校 石田 千陽教諭

24 4 年 算数 面積～広い方が勝ちの陣取りゲームを作ろう～

New!

岩国市立麻里布小学校 土井 健教諭

26 4 年 理科 ものの体積とあたたまり方

京都教育大学附属桃山小学校 長野 健吉教諭

28 4 年 図工 「アートカルタ」で遊ぼう

New!

宝仙学園小学校 百瀬 剛教諭

30 5 年 社会 これからの食料生産とわたしたち

New!

天童市立寺津小学校 近野 巧教諭

32 5 年 情報 プログラミング「ヒト型ロボットを活用して、よりよい学校にしていこう」

New!

学校法人鶴学園 なぎさ公園小学校 川人 祐介教諭

34 5 年 総合 やさしいまち

New!

戸田市立戸田第二小学校 池邊 寛教諭

36 6 年 英語 日本の昔話を英語で読もう

立命館小学校 正頭 英和教諭

38 6 年 国語 話の大事なところを聞こう ～メモを取ってみよう～

New!

茨城県立水戸飯富特別支援学校 宇野 明莉教諭・小野瀬 かほり教諭

40 6 年 国語 宮沢賢治「やまなし」「イーハトーヴの夢」

New!

台北日本人学校 稲木 健太郎教諭

42 6 年 道徳 くずれ落ちた段ボール箱

京都市立藤城小学校 神山 今日子教諭

中学校

- 44 1年 英語 英語の音読 個別指導
同志社中学校・高等学校 反田 任教諭
- 46 1年 英語 生徒によるテスト解説
New! 常翔学園中学校・高等学校 グリーン 和代教諭
- 48 1年 数学 一次関数の応用
立命館中学校・高等学校 越智 規子教諭
- 50 3年 数学 拡大コピーに隠された平方根を見つけよう
New! 多治見西高等学校附属中学校 小木曾 賢吾教諭
- 52 2年 理科 電流についての基礎的な知識を身につけ、実験を行う
New! 守山市立守山北中学校 中西 亮平教諭
- 54 3年 理科 プラスチックが止まらない
New! 上越教育大学附属中学校 大崎 貢教諭
- 56 2年 国語 声に出して味わう『平家物語』
お茶の水女子大学附属中学校 渡辺 光輝教諭
- 58 1年 社会 鎌倉幕府滅亡の原因を考えよう
大分県佐伯市立直川中学校 立石 俊夫教諭
- 60 1年 社会 北海道地方
New! 愛光中学・高等学校 松下 直樹教諭
- 62 1年 音楽 曲にふさわしい表現を工夫して歌おう
新地町立尚英中学校 秋元 裕美教諭
- 64 朝の職員ミーティング時間を短縮
鎌倉学園中学校・高等学校 松下副校長・郡司教諭・斉藤教諭・松井教諭
- 66 導入校一覧
- 70 モデル校募集のご案内
- 71 サポートのご案内



ロイロノート・スクール 授業実践事例

ロイロでは全国の先生から授業案を募り広く共有しています。
ご自身の授業の参考になさってください！



QRコードから
アクセス！





【インタビュー】日本大学高等学校・中学校



テスト成績が目ざましく伸びた

ロイロノート・スクールで生徒一人ひとりに向き合いサポートできる環境に

iPadとロイロノート・スクールを導入したことによって、

学習に自ら取り組む姿勢を育てることができ、成績向上につながりました！

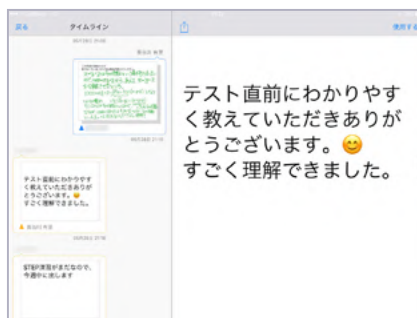
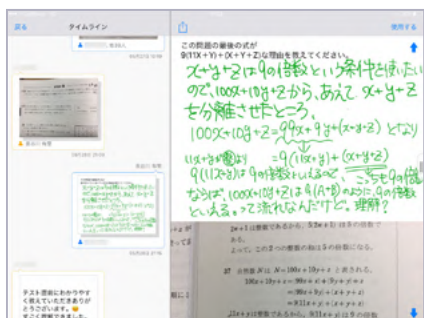
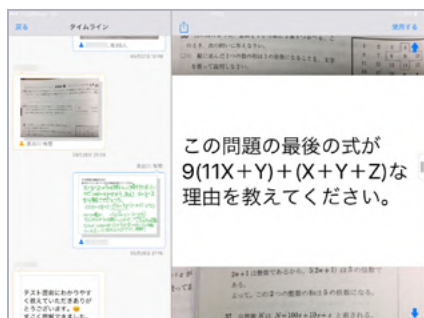
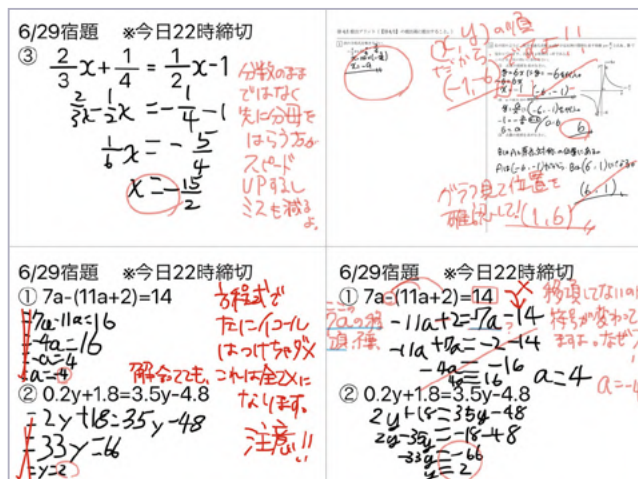
——テスト成績が目ざましく伸びたとお聞きしました。どんな工夫をされたのでしょうか？

勉強を好きになってほしいという気持ちで、さまざまな趣向を凝らし授業改善を行っています。

iPadの導入前から、その大きな取り組みの1つであるノート添削には特に力をいれていました。

ロイロノート・スクールの導入によって、ノート添削がペーパーレス化し、生徒一人ひとりと課題に対するキャッチボールをかなり頻繁に行えるようになりました。

それによって細かな指導をすることができ、「わかった！」「次も頑張ろう！」という意欲を引き出せていると感じています。



——どのクラスでも、タブレットが文房具の1つとして自然に使われている姿を拝見できました。

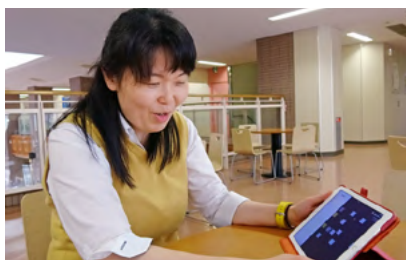
教科によってはロイロノート・スクールがないと授業ができないのではないかと感じるくらい、よく使っています。特に中学1年生の時に、双方向のやり取りを頻繁に経験することで、授業に自ら取り組む姿勢を育てることができました。それに加えて、授業資料は生徒の理解度に合わせてたくさん配信できるので、生徒が個別に課題に取り組むことができるようになったのも成績向上の理由の1つだと思います。

iPadの導入に消極的だった超ベテランの先生方が今では一番使っています。

少ないステップで、直感的に使えるロイロノート・スクールのおかげだと思います。



各教科での活用法



【数学】

学力推移調査で例年を上回るテスト成績結果がでました！
添削して解説を繰り返す。生徒からの質問にまめに答える。



【国語】

短い時間でドンドン送りあっている！
21世紀型スキルである、クリティカルシンキングを身につけさせる。



【理科】

- ・生徒の意見を取り入れて授業をすることで、モチベーションが高まり続けている。→理解度確認や小テストを行う。
- ・ペーパーレスで送る。→視聴覚教材の配信だけでなく小テストや休暇中の課題など、あるものはドンドン送っています。また、予習のためにも使っています。自主学习で伸びています。



【英語】

- ・とにかく英語を話す時間を増やす。
- ・生徒達のコミュニケーション力がグングン伸びています。

【インタビュー】立命館守山中学校・高等学校 辻 大樹教諭

英語 4 技能のテスト成績を伸ばす方法

TOEFL ITP 100 点 UP、GTEC 150 点 UP、英検 2 級合格、

はじめての TOEIC で 600 点想定が 820 点獲得！

英語リスニングの点数がビックリするくらい上がりました！

— リスニング・スピーキングの成績が目ざましく伸びたとお聞きしました。
どんな工夫をされたのでしょうか？

INPUT たくさんの OUTPUT を支える INPUT 方法

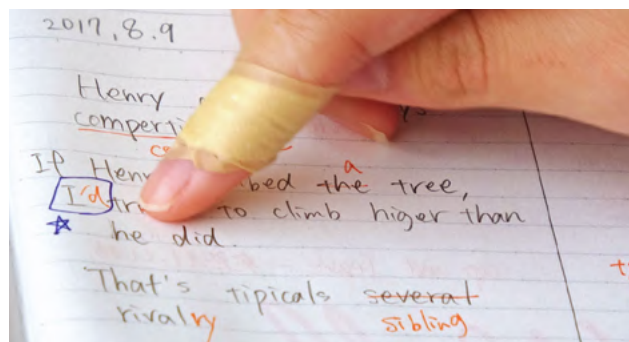
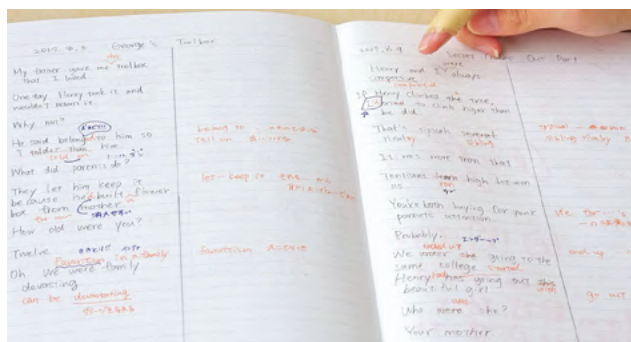
1. 自分のペースで音を聞く

リスニング中心に行う授業では、個別学習を進めています。
従来の授業では全員一斉に CD を聞くことがスタンダードでしたが、
これだと個別の能力に対応した授業ができませんでした。
個人によって聞き取れる量も、聞き取れる音も全く異なりますので、
生徒によって聞きたい場所や回数も異なってきます。そこで個別に
リスニングをするために、ロイロノート・スクールで音声データを
配信して個別に音を聞き、ノートへ書き取りをすることにしました。



2. リスニング宿題 40 秒ディクテーション

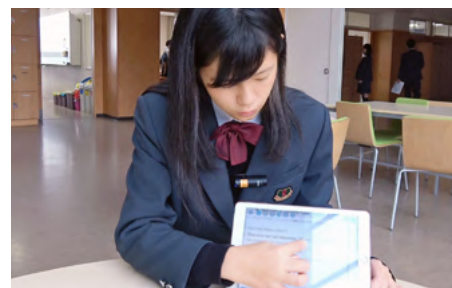
家庭学習として 40 秒程度のダイアログ（様々な教材を利用）のディクテーションを行わせています。
生徒には最低でも 6 回は聞くように指示しています。
ノートを二分割し、左半分は書き取り用、右半分は音声変化（連結、脱落、同化）をまとめさせています。
こうやって自分が聞こえない音を認識させ、「音を作る」作業に力を入れています。生徒は週 4 つのダイ
アログのディクテーションに取り組み、週 1 回そのノートを提出させチェックを行っています。



3. 休み中にも週替わりの宿題

長期休業中でも、たくさんのインプットを得られるようにロイロノート・スクールを用いて学習をさせています。

約40日の休み期間で、32題のダイアログのディクテーションに取り組ませました。提出期限はロイロノート・スクール上で通知設定できるので、2週間毎に分割させて課題を提出させていました。夏休み後の外部試験で、リスニングの点数が急激に上がった生徒がクラスで多数出てきました。



OUTPUT OUTPUTをビデオで提出

1. 即興で英語を話す

① 本文の読解からアウトプット

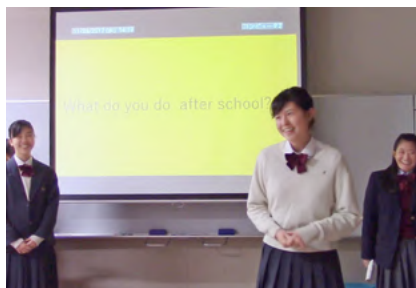
必ず本文をアウトプットする活動で終了しています。

リテリングもキーワードリテリングを行っていますが、3年生になった今ではキーワードの入ったスライドをこちらで配付して、すぐに（5分ぐらいは準備時間を与えていますが…）発表をさせています。「自分の言葉」で話すことにこだわり、1つのプレゼンのようになるように導入と結論を加えた発表にさせています。発表の記録に関しては、ペアになってプレゼンに取り組む姿をビデオで撮影してもらい、先生へ提出させています。



② 発展的アウトプット

本文から発展した活動として、ディスカッションやディベートも行っていますが、こちらも即興性を持たせています。最初は準備をさせてから行っていたのですが、ある程度「型」に慣れてきた段階で、即興的に話させる方向へシフトさせています。



③ 通訳訓練法でアウトプット

レッスンとレッスンの間や、時間が余った時などに投げ込み教材として通訳メソッドを用いた教材を利用しています（「英語リプロダクショントレーニング」）。

こちらに関しても、最終的にはアウトプットを動画撮影し、自分の発表を客観的に見て、次の発表につなげられるように指導しています。

ロイロノート・スクールは、すべての授業で使える 「思考力」「プレゼン力」「英語4技能」育成ツールです！

簡単に自分の考えをまとめ、発表することができるので、

子どもたちが自ら考え表現できる機会をより増やすことができます。

何度も自分の言葉で説明することで自信がつき、「思考力」「判断力」「表現力」を育てます。

導入された学校様からは、子どもたちが自然とアクティブになったと、声が上がっています。

第11回 日本e-Learning大賞
総務大臣賞



第11回日本 e-Learning 大賞 総務大臣賞を受賞！



マルチプラットフォーム対応

なぜ、ロイロノート・スクールなの？

いま日本ではアクティブ・ラーニングなど、
子どもたちが主体的に学ぶ授業が求められ始めています。

ロイロノート・スクールは、子どもたちからの発信を助け、
共有、蓄積して、学び合うためのツールです。
子どもたちからの発信が容易になることでその機会が増え、
自然と主体的に学ぶ授業へと変容していきます。

シンプルで使いやすいロイロノート・スクールは、先生たちの
授業を便利にしながら、新しい双方向型の授業を実現していきます。



新学習指導要領「主体的・対話的で深い学び」にピッタリ！

ロイロノート・スクール1つで、すべて完結します



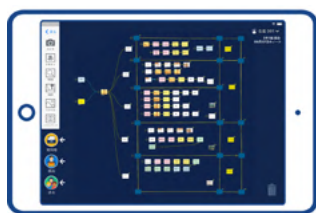
カードをつなげるだけ

自分のいろいろな考えをカードに書き出しましょう。
そのカードを線でつなげるだけで伝わりやすい順番に並べることができるから、授業中の短い時間で自分の考えをまとめることができます。



作ったカードはクラスで共有

作ったカードを先生に提出したり、生徒同士で交換しましょう。
提出されたカードを使って発表したり、友だちのカードを見たり、比較することで学び合いが生まれます。



蓄積されてポートフォリオになる

先生からの資料、実験の動画、授業中の発表やプレゼン、振り返りなど、授業のすべてがノートいっぱいに蓄積され、ポートフォリオができていきます。
そのポートフォリオを振り返ることで自分自身の成長が実感できるから、子どもたちの学習意欲があふれ出します。



[特許出願中]

思考力を育む

シンキングツール上にアイデアを書き出しましょう。
シンキングツールは「考える」パターンを図で表しています。
繰り返しアイデアから考えをつくり出すことで、思考力を育むことができます。

導入サポートもおまかせください！



研修会の実施や他校事例のご紹介はもちろん、
メールやLINE@でいつでも直接先生方のサポートをします。

クラウドでラクラク運用

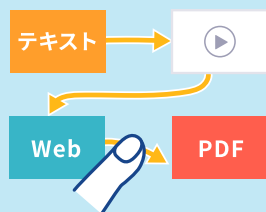
インターネット接続ができれば、すぐに使い始めることができます。
自分のIDでログインするだけで、学校でも自宅でも、いつでもどこでも
自分だけのデータを使って作業することができます。

お問い合わせはこちら  sales@loilo.tv

シンプルで使いやすい機能

考えをまとめ発表する

カードをつなげて構成



簡単に試行錯誤できる

双方向で授業がすすむ

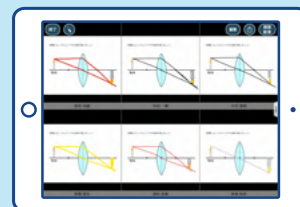
全員の回答を表示



先生が添削して
生徒一人ひとりに返却

学びあう

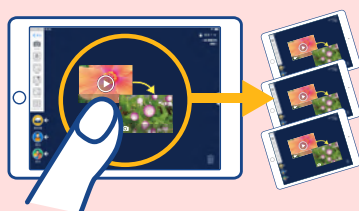
回答を比較する



誤答・正答で授業

教材を配付する

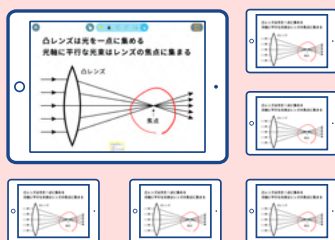
一斉配付された資料を
一人ひとりが受信



個別の受信にも対応

画面を配信する

先生の板書をリアルタイム配信



発表する生徒の画面も配信

協働で学習する

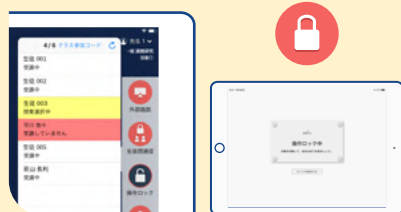
情報を共有し、自ら考え学ぶ



生徒同士でカードを送りあう

先生が 生徒の今の状態を把握

先生は画面をロックできる



授業に集中する環境づくり

授業の記録が残る

予習・授業・復習のカードを
一括管理



カードの書き出し

他のアプリでの使用や
印刷が可能



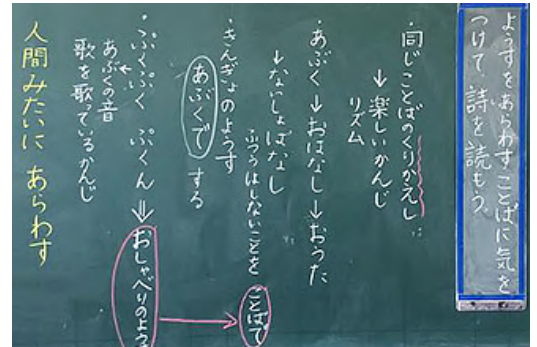
ロイロノート・スクールを使って、毎日授業が行われています

タブレットの便利なところから使い始めましょう！

まずは、いまの授業にプラスアルファ

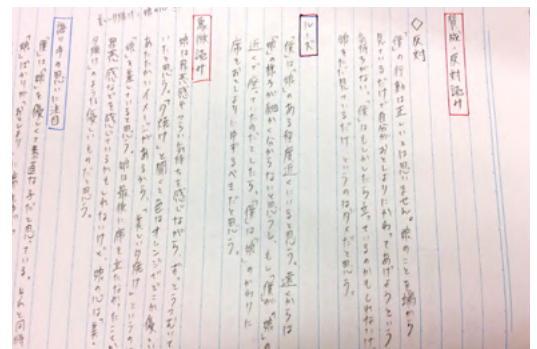
■ 板書を写真に撮っておく

板書をカメラで撮影しておきましょう。
その写真を単元の終わりや前時の振り返りに利用します。
子どもたちがタブレットを持っている場合、板書画像を
配信しておきましょう。
いつでも授業内容を振り返ることができます。



■ 子どものノートをカメラで撮影する

机上有る子どもたちのノートを撮影して、プロジェクター
や大型テレビに投影しましょう。タブレットはこのように
実物投影機としても利用することができます。



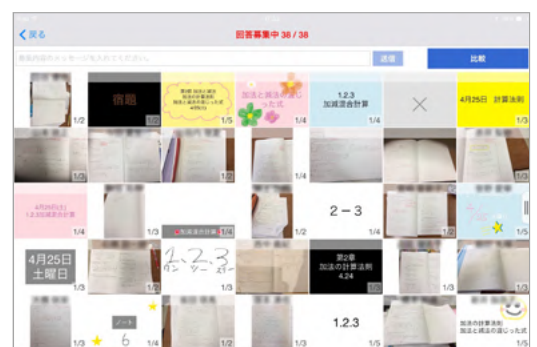
■ 資料の配付に使う

プリントを印刷して配付する代わりに、PDFデータとして
配信しましょう。動画や音声も一緒に送れるので、プリント
よりわかりやすい資料が簡単につくれます。
配付した資料は子どものタブレットに残るので、いつでも
振り返ることができます。



■ ノートの回収に使う

宿題ノートを回収して添削する代わりに、子どもにノートの
写真を撮って提出させましょう。
先生はノートの返却時間を気にすることなく、いつでも添削
して返却することができます。履歴がすべて残るので学習の
進展を把握することもできます。



国語

「筆者の考えを議論して、読み深める」

教科書の作品を読み、それぞれが感じた筆者の考えを文章でまとめたり、絵で描いたりしましょう。

カードを先生へ提出し、みんなで回答を共有して議論を行います。

他の人のさまざまな感じ方を共有することで、作品への理解を深めることができます。



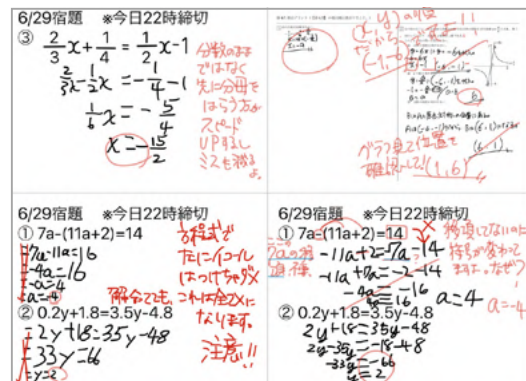
数学

「みんなで問題を解く」

生徒の回答を、カメラを使って集めましょう。

友達の問題を参考に、「より速く、簡単に、正確な」解き方を学び合うことができます。

先生も理解の進み具合を把握することができます。



英語

「発音を録画、録音する」

英語で話す様子を録画、録音しましょう。

今まで1人ずつしかできなかった英語での発表が、10分間でクラス全員終わります。

発話量が圧倒的に増えるから、実際に英語が話せるようになっていきます。さらに、動画や音声提出すれば、先生が発音の指導を行うこともできます。

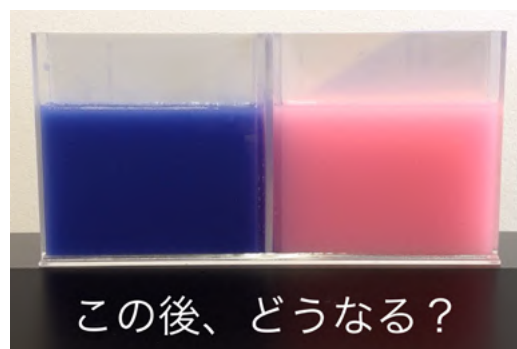


理科

「動画や写真を使って実験のレポートを作る」

実験の動画や写真を撮影しましょう。

撮影したカードを整理し、テキストをつけてまとめ、そのまま発表へ。単元全体を俯瞰してみることで、知的好奇心があふれ出します。



社会

「資料を読み解き、根拠をもって発表する」

資料やWebを調べて、課題に対する自分の考えを、根拠をもって発表しましょう。

資料を読み解き、自分の言葉で説明することで知識が定着します。



教員利用

「職員ミーティングで利用する」

ロイロノート・スクールは、毎朝の職員ミーティングで先生同士の情報共有にも利用できます。

しかも、先生だけの利用ならロイロノート・スクールは無料です！

タブレット導入の一步目としてオススメしています。

実際に職員ミーティングで利用をされている、鎌倉学園中学校・高等学校様のインタビューは64ページをご覧ください。



学習単位ごとにノートに分けよう

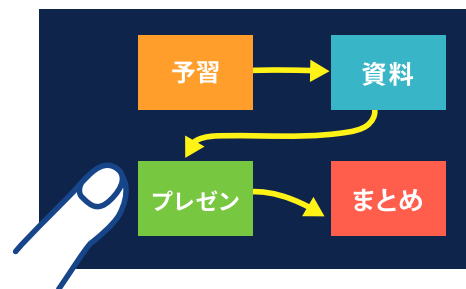
学習単位ごとにノートに分けることで、学習内容を整理することができます。子どもたちにも、単位ごとにノートに分けるようすすめてください。



自分だけのノートを作ろう

- ・自分の予習
- ・先生が授業で配付した資料や板書画像
- ・自分の回答や考え、プレゼン
- ・毎回の授業のまとめ

単位ごとに作られたノートの中に、授業で使うすべての情報を入れましょう。それらを整理しておくことで、頭の中が整理され、思い出す機会が増えるため記憶が定着していきます。



毎回の授業を文章でまとめよう

各授業の終わりに5～10分ほど時間を取り、子どもたちにその授業で何を学び取れたのかを200文字程度でまとめさせます。

このとき、「楽しかった」などの感想語は禁止にすることを心がけてください。感想ではなく、具体的に自分がその授業で何を得たのかを文章化させましょう。

提出されたまとめから、先生は子どもたちの理解度を測りながら授業を進めていくことができます。

すいせんするには、いくつかのポイントがあります。それは理由づけとして、「事実」を上げることです。つまり客観的視点で見ると、こうすることでより説得力が増し、良いすいせんになるのです。また、目的をしっかりとらえ、条件が目的から外れないようにすることも大切なポイントになってきます。条件とは、例えば～な人という風にその目的から伝える範囲を絞っていくということです。そのために、目的をしっかりと分析し、テーマを具体化する必要があります。このことから、自分が、伝えたいものをよく知り、事実を知ることが必要だということがわかります。

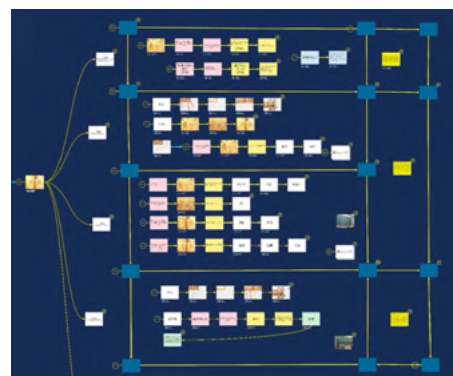
さらにポートフォリオ化「LOPP」

先生は、子どもたちにこの単元を学んだ後に、答えられるようになってもらいたい問いを用意しておきます。

「～を説明しよう」という問いにするのがおすすめです。例えば、「物が溶けるということはどういうことか説明しよう」などです。単元の最初の授業と、最後の授業でこの問いに答えてもらいます。「わかってなかった自分の答え」と「授業によってわかるようになった自分の答え」を比べることで、自身の成長を実感することができます。そして、成長が実感できることで学習意欲がわいてきます。

また、毎回の授業のまとめや予習復習した内容、資料、途中の考えや答えなども、この問いの答えと同じノートに入るので、どういう過程で成長できたのかを一覧として振り返ることができます。

これは、本来1枚の紙で行う「1枚ポートフォリオ(山梨大学・堀 哲夫教授)」を、ロイロノート・スクールを使って行う応用です。名付けてLOPP(LoiLoNote One Paper Portfolio)。まずは、学習単位ごとノートに分けるところから始めてみましょう！





ロイロノート・スクール

授業実践事例

全国の学校で、ロイロノート・スクールを使って毎日授業が行われています。

小学校・中学校で集められた、多彩な実践事例をご覧ください。

つくろう！ABCダンス

ロイロノート・スクールで、より良い動きのつなぎ方を考える活動を通して、プログラミング的思考を促す授業を展開します。

実践の概要

創作ダンス活動を通して、軽快なリズムの音楽に乗って、弾んで踊ったり、友達と調子を合わせたりして踊る学習です。

まず、児童たちにダンスの振り付けを自由に考えさせ、しばらく試しに動いた後、全体でどんな振り付けを考えたのか発表し合いました。発表で出し合った考えを共通点でまとめ、振り付けを6種類に絞りました。その振り付けをタブレットで撮影して、ロイロノート・スクールに保存しました。

次に、「動きのつなぎ方を考えて、ダンスをつくろう」という学習課題を設定し、「6種類の動きをどうやってつないでいくか」について考えていきました。そこで、「6つから4つを選んで振り付けをつくる」という条件を提示し、何を基準に4つを選び、どうやってつないでいくか考えました。

思考していく上で、どのようにつないでいくとよいか、つなぎ方の基準を話し合わせる場をつくり、基準を立てることができました。まず踊りやすさを考える、音やリズムとの合わせ方を考える、この2つの基準により、全員が動きのつなぎ方に見通しをもつことができました。その後、踊りやすさ、音やリズムとの合わせやすさを基準に、動きのつなぎ方を考えていきました。

ロイロノート・スクールで一通りの動きを撮影し、つなげた後、スライドショーで動きの流れを見て、実際に踊りながら、振り付けを完成させていきました。完成した振り付けを全体で発表し合い、「どんなダンスになったか」という内容と合わせて、「どのようにダンスをつくったか」という方法に関する振り返りをさせました。

ロイロノート・スクール導入のメリット

ロイロノート・スクールを使用することで、デジタル化された動きを組み合わせることで1つのダンスを創作する活動を通して、動きのつながりを可視化でき、考えたことを友達に伝えることができました。

実践の目標

- ・ダンスに入りたい動きを選び、動きのつながりを考えて、一連のダンスをつくることができる。
- ・友達と協力しながら、自分たちで考えた動きを再現することができる。
- ・自分で組み合わせた動きを、軽快なリズムに乗って踊る技能を身につけることができる。
- ・軽快なリズムに乗って踊る簡単な踊り方を工夫し、考えたことを友達に伝えることができる。
- ・リズム遊びに進んで取り組み、誰とでも仲良く踊ったり、場の安全に気を付けたりすることができる。

実践の場面

1. 6種類の動きをつくり、ロイロノート・スクールに保存する

まず、児童たちにダンスの振り付けを自由に考えさせた。

試行錯誤しながら、どこをどのように動かそうか考えていった。

しばらく試しに動いた後、全体でどんな振り付けを考えたのか発表し合った。

発表で出し合った考えを共通点でまとめ、各グループで動き方を絞らせた。

6種類に絞った振り付けをタブレットで撮影して、ロイロノート・スクールに保存していく。

1つの動きは8呼間で作成し、4つつなげることでひとまとまりにするようにした。

2. 学習課題を設定する

ロイロノート・スクールに動画を保存した後、児童たちが課題意識を高め、学習課題を設定できるよう「この振り付けをどうしたいですか？」と問いかけた。

児童たちは「動きをつなげたい」、「いろいろと並び替えて試してみたい」と発言した。そして、「動きのつなぎ方を考えて、ダンスをつくろう」という学習課題を設定した。



3. 6つから4つの動きを選択する

学習課題を設定した後、「6種類の動きをどうやってつないでいくか」について考えた。

そこで、「6つから4つを選んで振り付けをつくる」という条件を提示した。自分たちが保存した6つの動画を見比べたり、実際に踊ってみたりして、何を基準に4つを選び、どうやってつないでいこうかと考え始めた。



4. 選んだ4つの動画について交流し、つなぎ方の見通しをもつ

しばらく動きを試していくと、自分なりの基準で4つを選択した児童が出てきた。しかし、ここではまだつながられていないグループや、何となくつないだだけというグループなど様々だった。そこで、途中経過を交流する活動を設定し、どのようにつないでいくとよいか、つなぎ方の基準を話し合わせる場をつくった。

児童たちの意見をまとめると、大きく2つの基準が分かった。

①踊りやすさを考えること。②音やリズムとの合わせ方を考えること。この2つの基準が分かったことで、全員動きのつなぎ方に見通しをもつことができた。



5. 振り付けを完成させる

動きのつなぎ方に見通しをもった後、踊りやすさ、音やリズムとの合いやすさを基準に、動きのつなぎ方を考えた。ロイロノート・スクールの画面では、動画を自由につなぐことができ、スライドショーのように流すことができる。そのため、一通り動きをつなげた後、スライドショーで動きの流れを見て、実際に踊りながら、振り付けを完成させることができた。



6. 学習を振り返る

完成した振り付けを、全体で発表し合った。自分たちがつくったダンスに満足感を得ている様子だった。ここで、「どんなダンスになったか」という内容と合わせて、「どのようにダンスをつくったか」という方法に関する振り返りをさせた。

こうすることで、ロイロノート・スクールを使って動きをつなげることの良さ、動きの流れを見ることが出来る良さについて自覚することができた。

自分たちでオリジナル絵本をつくろう

ロイロノート・スクールでオリジナル絵本を作り、
楽しみながら英語を話し、英語に慣れ親しむ学習を目指します。

実践の概要

事前準備として、ロイロノート・スクールでデジタル英単語帳を作り、発音練習に生かしました。

絵本『Brown bear, Brown bear, What do you see?』は同じフレーズが登場するため、声に出して楽しむことができます。この絵本に登場する動物のイラストを活用し、好きな色を塗って世界に1頭だけのオリジナル動物を作りました。個人で作った動物のカードをグループで共有し、それぞれのオリジナル動物のカードをつなぎあわせて、試行錯誤しながら納得のいく絵本を作っていました。

絵本『Brown bear, Brown bear, What do you see?』の中にあるAとBのパートを、グループ内で分担をして、それぞれが交互に声に出しながら読んでやりとりを楽しみました。パートも交代しながら取り組むことで、英語でやりとりする機会を増やしました。

そして、自分たちの作品を他のグループに紹介する活動を行うことで、それぞれのグループが作った絵本にも触れることができ、英語表現を声に出して楽しむ機会も増えるようにしました。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・絵本スライドの組み合わせを何度も変えながら、オリジナル絵本の構成を考えることができました。
- ・ALTと協力してデジタル音声教材を作ることで、いつでもネイティブの発音を聞きながら学習することができました。
- ・絵本をロイロノート・スクール上で提出してもらい、回答共有をすることで、いつでも友達作品を見ることができます。
- ・すべてのグループが作った絵本をロイロノート・スクール上でつなげることで、簡単にクラス全体の絵本を1冊の絵本にまとめることができました。

実践の目標

- ・オリジナル絵本をもとに、読み聞かせの練習をしたり、他のグループと発表を聞き合ったりして、より動物や色の英語表現に慣れ親しむことができる。
- ・絵本を作るだけでなく、その絵本をもとに英語を使ってやりとりすることができる。
- ・意欲的に学習に取り組むことができる。

実践の場面

1.【事前準備】オリジナルデジタル教材(単語帳)を作る

本単元の学習に入る前に、ALTに協力してもらってオリジナルデジタル単語帳を作った。

赤や黄色など色のスライドや、動物のイラストを取り込んだスライドに、ロイロノート・スクールの録音機能を活用してネイティブの発音を取り込んだ。ロイロノート・スクールで共有することで、他学年でも活用することができた。



2. 自分だけの動物を作る

タブレット端末を活用して動物のイラストに色を塗り、世界に1頭だけのオリジナル動物を作った。



3. オリジナル絵本を作る

個人で作った動物のカードをグループで共有し合い、それぞれのオリジナル動物のカードをつなぎあわせて絵本を作った。「この動物の次には、この色の動物があるといい！」など、自分たちなりにテーマを決めて絵本作りに取り組んだ。何度も試行錯誤しながら、納得のいく絵本を仕上げていった。



4. 友達とやりとりするときのゴールイメージをもつ

学習のはじめに、友達とやりとりするときの見本を見せたり、動画で確認したりすることで、学習活動のゴールイメージをもって取り組むことができた。



5. 自分たちの作品を声に出して読み合い、英語表現を楽しむ

絵本では、「Brown bear, Brown bear (動物名), What do you see?」(Aパート)、「I see a Red bird, looking at me.」(Bパート)というやりとりが登場する。

グループ内でA・Bパートの分担を決める。それぞれが交互に声に出しながら読んでやりとりを楽しんだ。パートも交代しながら取り組むことで、英語でやりとりする機会を増やした。



6. 友達と作品を声に出して読み合い、楽しむ

自分たちの作品を他のグループに紹介する。

作品を読み聞かせするグループはBパート、読み聞かせを聞くグループはAパートに分かれた。読み聞かせが終わったら、次はAパートをしていたグループがBパートを担当し、そのグループが作った絵本の読み聞かせをした。順番に交代しながら読み聞かせをすることで、それぞれのグループが作った絵本にも触れることができ、英語表現を声に出して楽しむ機会も増えた。



旋律の特徴を感じとろう ～メヌエット～

萩市立育英小学校

石田 千陽教諭

曲の鑑賞から、聴き取ったことや感じ取ったことと

曲の仕組みとの関わりについて考えます。

実践の概要

曲の鑑賞を通し、聴き取ったことについて、音楽の要素や仕組みを根拠に述べることができるよう、本時では、速度や強弱、音符など、音楽を形作っている要素に着目させ、それらと曲から感じ取ったことの関わりについて考えさせました。

そして、最後に曲想や旋律の特徴をもとに、短いお話を作る活動を行いました。

ロイロノート・スクールを活用することで、聴き取ったことを可視化でき、児童の聴き取る力・感じ取る力を伸ばすことができました。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・音源を児童一人ひとりに配付することができるため、それぞれが聴きたい箇所を何度も聴くことができます。
- ・書き込んだ図形楽譜や表を提出することで、簡単に考えを共有することができます。

実践の目標

楽曲を口ずさんだり、図形楽譜で旋律を確認したりすることで、曲想の変化や音楽の仕組みについて聴き取ることができる。

実践の場面

1. 本時の学習の見通しをもつ

これまでの学習から、児童たちは2拍子と3拍子について歌唱活動を通して理解している。既習の楽曲を歌う活動を通して、「メヌエット」が3拍子であることに気づけることを本時のねらいとした。

2. 「メヌエット」を鑑賞し、曲想の変化をとらえる

曲の途中、曲想が変化するところで児童たちから、「歩いていけど、途中で走っているように感じたよ」、「くるくる回って踊っているよ」などの発言や記述が見られ、曲想について感じ取っていることが分かった。

また、ロイロノート・スクールで児童に音源を事前に配付しておき、変化していると思われる箇所を何度も聴き直すよう指導していた。

そのため、曲想の変化に気づく有効な手立てとなった。



3. 音楽を形作っている要素や音楽の仕組みに着目する

曲想やその変化を生み出している音楽の構造に目を向けるために、聴き取ったことを図形楽譜や表に児童一人で考えて書き込ませた。そして、最初に関わり取ったことと重ね合わせ、「一音ずつの長さが短くなったことで、スキップしているような気がした」などのように、聴き取ったことと、感じ取ったこととの関わりについて考えさせた。



4. 聴き取ったことと感じ取ったことについて友達と話し合う

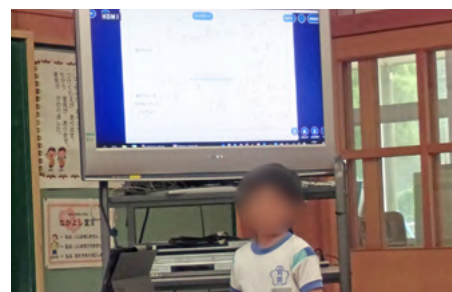
聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えたことを友達と話し合い、発表を行った。

自分が聴き取っていなかったことがあれば、それぞれのタブレット上にある音源を再度聴き、共有を図りながら話し合わせた。



5. 曲から聴き取ったことや感じ取ったことをまとめ、全体共有する

話し合い活動を通して、一人では気づかなかった音楽の構造について気づくことができた。曲想や音楽の構造についてまとめた表をテレビ画面に表示して全員で共有した。気になる意見は、拡大して確認した。



6. 曲想や旋律の特徴をもとに、短いお話を作る

最後に、「メヌエット」に合う一つの短い話を考える。

この活動から、聴き取ったことと曲想の変化や音楽の仕組みを関連づけて理解することができた。一人ひとりが考えた話を共有し、比較した。曲から感じ取ったことがそれぞれ少しずつ違ったことで、6種類の異なる話を楽しむことができた。

面積 ～広い方が勝ちの陣取りゲームを作ろう～

長方形、正方形の複合図形の面積の求め方をゲームづくりを通して

楽しく発見します。

実践の概要

本単元では「陣取りゲームを作る」という学習課題の達成をめざし、面積の求め方の学習に取り組みます。児童が面積の学習で作ったステップ・チャートをもとに、教師がプログラムを実装し、児童に提示するという形で学習を進めました。

本時は、L字型の図形ができた場合の面積の求め方について取り上げました。

長方形に分けて求積し、足し合わせる方法と、欠けた部分を補った大きな長方形から不要な部分を引く方法の2つの方法を見つけ出しました。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・問題が書かれたカードを素早く配付、回収することができるので、時間の短縮につながります。
- ・提出機能を活用することで、全体場で発表したり、互いの考えを比較したりしやすくなります。
- ・自分の考えを説明するためのさまざまな工夫が容易にできるため、児童の情報活用能力の育成が期待できます。
- ・本時は、時間の都合上、比較機能と紙媒体を使って考えを分類させましたが、シンキングツールを使うことで、より分かりやすく分類させることができます。

実践の目標

- ・面積の単位 cm^2 、 m^2 、 km^2 、a、haについて知り、正方形および長方形の計算による面積の求め方について理解することができる。
- ・面積の単位や図形を構成する要素に着目し、面積の求め方を考えることができる。

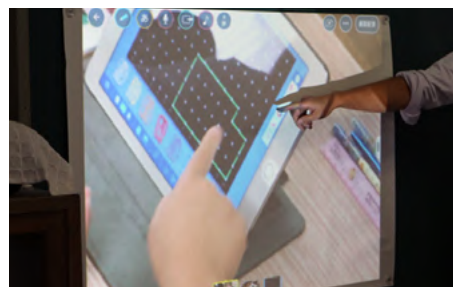
実践の場面

1. 本時の学習内容を確認し、学習の見通しをもつ

陣取りゲームでは、サイコロの目を辺の長さとする図形を作り、その面積が広い方が勝ちとする。

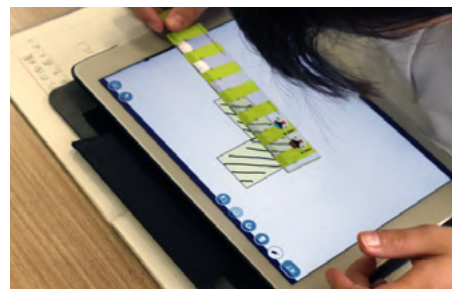
本時は、L字型の図形を提示し、その求積方法を考える。

アイデアを出し合い、これまでに学んできた長方形や正方形の面積の公式が使えるぞという見通しをもたせる。



2. L字型の図形の面積の求め方を考える

L字型の図形が書かれたカードをロイロノート・スクールで配付する。児童一人ひとりが面積の求め方を考える。児童は必要な線をかき加えたり、辺の長さを測ったりしながら工夫して面積を求めた。クラスメイトに説明することを想定し、分割してできた長方形や正方形を色分けする姿も見られた。



3. 互いの考えを説明し合う

児童が自分の考えをクラスメイトに説明し、比べ合う。

その後、自分の考えを書いたカードを教師に提出する。交流の中で、自分と同じような考え方をしている人もいれば、まったく別の考え方をしている人がいることに気づくことができた。

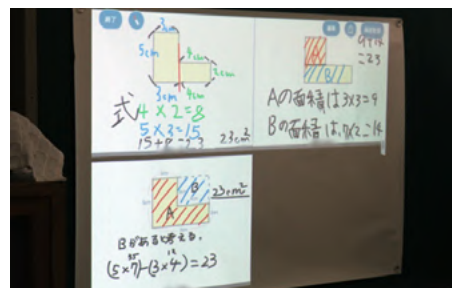
また、ロイロノート・スクールを使って、互いに説明し合うことで、発表の仕方にも慣れ、自分の考えに自信をもつことができた。



4. 考えを比較し分類する

ロイロノート・スクール上に提出されたカードの一覧から、他と異なる求め方を見つけさせ、学級全体で発表させる。

計算手順についての考えを比較し、分類させる。L字型の図形全体を長方形と正方形に分けて求積し足し合わせる方法と、欠けた部分を補った大きな長方形から不要な部分を引く方法の2つの方法があることに児童自ら気づくことができた。



5. L字型の面積の求め方をチャート図にまとめる

分類した2つの方法をそれぞれステップ・チャートにまとめる。

長方形と正方形の「面積を求める」部分は、前時までに学習した面積の公式にあてはめることを確認する。ステップ・チャートを見渡し、本時の学習を振り返ることで、複合図形の面積の求め方についての理解を深めることができた。



6. 発展的な課題に挑戦する

本時で発見した複合図形の面積の求め方を活用し、凹字型の図形の面積を求めさせる。振り返りで用いたステップ・チャートを見ながら、試行錯誤する様子が見えたと。



ものの体積とあたたまり方

京都教育大学附属桃山小学校

長野 健吉教諭

シンキングツールは、パフォーマンス課題授業に必須

実践の概要

空気のあたたまり方を、実験結果を根拠として温度の変化による体積の変化と関係づけて説明します。このような論理的思考を獲得した姿を目指します。そのために、パフォーマンス課題「住空間に最適な空調を設計士として大工さんへ提案する」を設定しました。

根拠を考えるためにシンキングツールの「キャンディチャート」であたたまり方の根拠をまとめ、論理的に説得するために構造化の思考をシンキングツールの「ピラミッドチャート」で、“あたたまり方の事実を根拠にした主張”を構築します。どのように事実から主張できるかについて、カードをつなぎ変えて様々な角度から相手を説得する主張を作成します。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・まず自分で考えたことを瞬時に共有できる点です。共有することで、友達の考えを元に自分の考えをさらに発展させることができます。

例えば「4分で〇〇について考えを書く」とした場合、まずは自分でカードに書いて2分後に先生に提出し、先生から共有されたクラス全員の考えを見て、すぐ自分の考えに取り入れ修正して再提出するという2段階にします。これによってお互いに高め合い、思考を高速化させることができます。

- ・ロイロノート・スクール上でシンキングツールを使う利点は、カードの移動、コピーが簡単なため、シンキングツール間での考えの移行が、自然な流れで行えるようになった点です。

例えば、比較したことを根拠に考えを述べる場合、ペン図上で作成したカードを、そのままピラミッドチャートに移行して使うことができます。

実践の目標

空気のあたたまり方を温度、体積の変化と関係づけて考え、パフォーマンス課題の「住空間に最適な空調を大工さんへ提案する」について根拠をもって説明することができることです。

実践の場面

1. 生徒とループリックを作成する(この授業で到達したい自分の姿)

自分たちで具体的な到達点を作ることで、これまでの学習を思い返すことができ、学習への気持ちがより高まっていきます。「あたたまり方」の言葉から温度や体積など、これまでの学習で学んだ言葉を使って学習のめあてを分析します。

そこから生徒がループリックのA評価を作ります。グループで話し合いを2分間行い、その後、生徒同士の発言を連鎖させるためにハンドサインを使用して全体の意見の統合をします。



2. 実験の結果を振り返り、考察する

実験した動画や画像を振り返り、どんな現象であるのか根拠をもって考察します。空気の対流という現象から、「水のあたたまり方」の考えが使えないか、「体積変化」の考えが使えないかを、前に学んだカードを見て考えていきます。ベン図を使って「体積の変化」と「あたたまり方」を比較して考えを深めます。まず、個人で考えた後、グループで活動することで深い考察ができ、さらに、グループの考察を全体発表することで、高め合うことができます。



3. 結論を導くために全体で考えを交流し高め合う

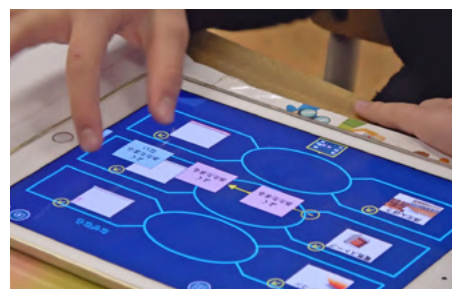
グループ間での考えのギャップを埋めるために、全体で発表します。全体で考えを深める方法として、始めのグループ発表に対して付け足す意見の生徒が発表していきます。

今回の授業では、水のあたたまり方での粒子モデルを引用しての説明、空気があたためられた時の体積の粒子モデルの説明へと考えが付け足されました。全体での発表後、再びグループで話し合いを行い、学習問題である「空気はどのようにあたたまるのだろうか」に対する考えを個人でまとめます。



4. パフォーマンス課題の解決「最適な空調を大工さんへ提案」

習得したことを活用できる力を身につけるため、空気のあたたまり方の考えを使って、「エアコン・床暖房・電気ストーブ」の3つのうちから、より部屋をあたためるものを考えます。条件（空調設備）と結果（あたたまるかどうか）を明らかにし、その根拠に目を向ける思考を促すために、シンキングツールの「キャンディチャート」を使います。根拠の欄には、これまでの学習で作成したカード（対流のイメージ図、実験の様子、粒子モデルなど）をつなぎ合わせます。よくあたたまる空調設備を、明確な理由をつけてグループに伝えられるようになりました。



5. 説得力のある説明をするために、考えを構造化する

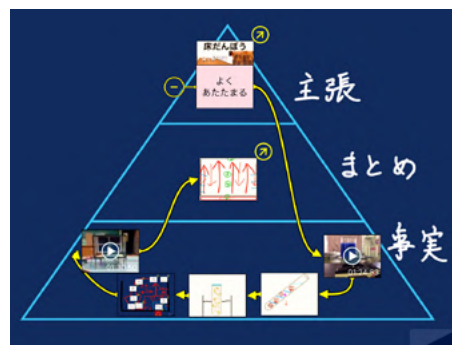
「キャンディチャート」で作った考えを、説得力のある説明にするため、「ピラミッドチャート」を使い構造化します。「キャンディチャート」での「条件」と「結果」の部分（〇〇ならよくあたたまる）を、自分の「主張」とするために、「ピラミッドチャート」上部にそれらのカードを移します。次に「理由」としたカードをピラミッドチャートの下部「事実」に移動させます。中段のまとめの部分に対流のイメージをもってきて、事実を根拠とした論理的な構造が完成します。



6. 説得力のある説明をするために、構成を練る

パフォーマンス課題を解決するために、ピラミッドに配置したカードを上（主張）下（事実）中（事実まとめ）の順番でつないでいくと、説得力が増す説明ができるようになります。

さらに工夫する点として、頭括型、尾括型、双括型などでつなぎかえ、説明する順番を何度も再構築していきます。まず個人で作成し、グループ内で根拠をもって説明を行います。声に出して説明することで、伝わりやすい構成に気が付き、何度も伝える順番を変更して発表していました。完成した「ピラミッドチャート」は先生に提出し、全体で共有して学び合いました。



「アートカルタ」で遊ぼう

宝仙学園小学校
百瀬 剛教諭

アート鑑賞を通して、美術作品への深い観察力と様々な見方を育みます。

実践の概要

「アートカード」は、名画や現代アートなど様々な美術作品をカード化したもので、カードを使って楽しみながら作品に親しみ、「見る喜び＝鑑賞の楽しさ」を味わってもらう図画工作科の鑑賞教材です。

授業前半では、アートカードの分類活動を行い、描かれている作品をグループで深く鑑賞します。

後半は、アートカードを用いた「アートカルタ」に挑戦します。各自で1枚、作品からイメージする読み札を作成します。最後に全員の読み札を回答共有し、互いの表現を味わいます。

ロイロノート・スクールとアートカードを併用することで、より効果的に子ども同士のコミュニケーションを重ねることができました。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・ロイロノート・スクールの活用により、提示方法や回答共有方法が格段に活性化され、より一層子ども同士のコミュニケーションがうまれます。
- ・ロイロノート・スクールを活用したデジタル読み札は「複数の読み札」や「写真」を1つにつなげられるので、紙の読み札よりもヒントが豊富で、ディスプレイ提示しやすくなります。
- ・回答共有の機能により、教師が取り上げきれない読み札も、子どもたちが自由に見せ合い交流する場を作ることができます。

実践の目標

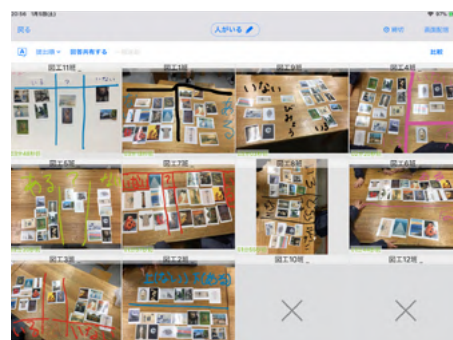
- ・「アートカルタ」の読み札を考え、その読み札をプレゼンテーションすることができる。
- ・クラスメイトが作った「読み札」でカルタをしながら、作品鑑賞を楽しむことができる。

実践の場面

1. アートカードの分類

アートカードをよく鑑賞して慣れ親しむためのイントロダクションとして、内容・素材・制作時期が異なるアートカードをグループで鑑賞し、「人がいる？いない？」「青がある？ない？」など教員が示した視点にもとづいて、作品进行分类する。

分類したカードをカメラで撮影し、ロイロノート・スクールで提出する。グループで協力したり相談したりして、様々な見方や解釈の違いを共有しながら楽しむことができた。



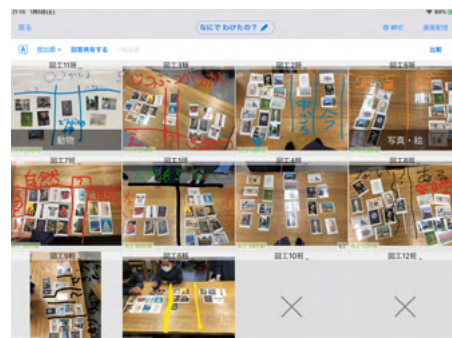
2. オリジナルの分類

場面1の活動から、それぞれのアートカードの共通点を見出すことで、分類できることを経験した。今度は自分たちで決めた視点にもとづいて分類する。机の上に分類したカードを並べて撮影し、ロイロノート・スクールのカードに分類の視点を書き込んで提出する。なお、他グループには、分類の視点を伏せておいた。



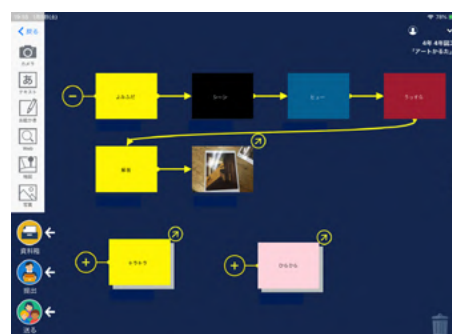
3. 他グループの分類を検討する

他グループの分類を自由に見て回り、提示されているアートカードからいろいろな情報を感じ取り、どのような分類がされたのかを考える。クラスメイトと相談しながら考えることも可とする。最後に、場面2で提出された回答を共有して、各グループの分類の視点を知る。このような活動から、深い観察力と様々な見方が涵養されます。



4. 「アートカルタ」の読み札を考える

十分にアートカードを鑑賞した後、「アートカルタ」の活動へと展開する。1人1枚ずつアートカードを選び、読み札を考える。読み札は、作品から感じ取れる様子をオノマトペで表現し、選んだアートカードの写真をつけて提出する。



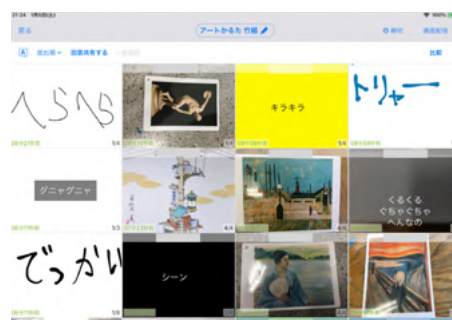
5. オリジナル読み札で「アートカルタ」に挑戦する

場面4で各自が作った読み札で、実際に「アートカルタ」を行う。クラスメイトと相談して、読み札のオノマトペからイメージするアートカードを探す。ただし、本活動は、アートカードに描かれている作品の鑑賞を楽しむことを目的としているため、枚数を競わせることはしない。この時、読み札の作者は公表しないこととした。



6. 読み札を共有する

「アートカルタ」で読み上げることができなかった読み札を含め、最後に全員の読み札を回答共有する。自分の興味がある読み札を自由に見ることができ、時間の短縮と個人の学びを同時に実現することができた。



これからの食料生産とわたしたち

食料生産について、根拠をもとに自分の考えをまとめる授業を展開します。

実践の概要

本時は、これまでに学習してきた食料生産についての情報をもとに、児童たちを取り巻く食料生産について、自分にできることを具体的に考えました。

食料自給率や食料品別の輸入量の変化、フードマイレージの資料などを参考にしながら、自分にできる手立てをカードにまとめ、発表しました。シンキングツールを用いて、それぞれの考えを整理したり、考えの根拠を資料で提示したりすることで、聞き手を意識した発表となりました。

また、各自のカードを一覧表示で共有、全員に画面配信することで、他者の考えから、新たな視点や手立てに気付くことができ、学習内容についての考えを深めることができました。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・自分の考えをカードにまとめ、短時間で整理することができます。
- ・色別のカードにまとめることで、視点を明確にすることができます。
- ・シンキングツールを使って、自分の考えを構造化して考えたり、多面的に見て考えたりすることができます。
- ・一覧表示にして画像配信することにより、自分の考えと他の人の考えを比べ、共通点や相違点に着目しながら聞くことができます。

実践の目標

- ・食料生産量の変化や輸入など、外国との関わりに着目して、調べたりまとめたりすることができる。
- ・これからの我が国の食料生産について、自分の生活と関連させながら考え、表現することができる。

実践の場面

1. 前時までの学習を振り返る

前時までに学習した食料自給率について振り返る。

教科書にある写真やグラフ（「食生活の変化」、「日本と主な国の食糧自給率」、「食料品別の輸入量の変化」、「産業別の人口の割合の変化」、「土地利用の変化」など）、TPPやフードマイレージの資料などを確認し、日本が輸入に頼っている現状や農業に携わる人の減少をどのように考えるか問いかけた。

輸入に頼っていることに対して課題意識をもち、自分たちにどのようなことができるか考えさせた。



2. 考えの根拠となるカードを作る

「これからの食生活の中で自分たちにできること」として、どのような手立てがあるのか、自分の考えをロイロノート・スクールにまとめる。また、その理由を記入したカードを作成する。

理由を明確にしたうえで、根拠となる資料をこれまでの学習の記録や教科書から探し、写真や文字でカードにまとめた。色カードを使い分けることで、考えと理由、その考えに至った根拠となる資料をわかりやすく示していた。



3. カードを整理する

シンキングツールのフィッシュボーンやピラミッドチャートを使って、場面2で作ったカードを整理する。

シンキングツールを使うことで、自分の考えを整理し、より明確に視覚化することができる。課題に対して、多面的に見て考える時にはフィッシュボーン、自分の考えを構造的に示したい時にはピラミッドチャートを使ってまとめていた。また、なかなかシンキングツールにまとめられない場合は、カードをつなげて1つのスライドにまとめる方法でもよいこととした。



4. シンキングツールカードを提出する

自分の考えやその考えに至った理由、理由の根拠となる資料を整理したフィッシュボーンやピラミッドチャート提出する。

電子黒板に全員のシンキングツールカードを一覧表示で映し出し、クラスメイトがどのような考えをもっているか共有した。誰がどのシンキングツールを使って考え、どのような思考の流れがあったのか、お互いの考えを見比べた。



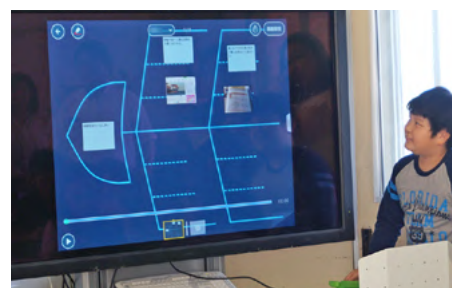
5. 提出したものをお互いに見合う

場面4で提出された各自の考えを一覧表示し、教師から全員のタブレットに画面配信した。画面配信することによって、電子黒板ではよく見えなかった所まで見ることができ、気になる画像があれば拡大したり、比較画面で自分の考えと見比べたりしながら、お互いの考えを共有していった。



6. 考えや根拠を発表する

作成したシンキングツールをもとに、自分の考えやその根拠を発表する。農業が盛んな地域性を生かして今回の課題を設定したこともあり、「農業を体験する」、「地産地消を目指す」、「国産の物を選ぶ」などの意見が出された。自分の生活を振り返ることで、社会をより身近にとらえながら考えることができた。教科書や農林水産省のデータをもとに、自分の考えを発表し、また聞く側も発表者の主張を視覚的にとらえながら聞いていた。



プログラミング

「ヒト型ロボットを活用して、よりよい学校にしていこう」

学校法人鶴学園 なぎさ公園小学校
川人 祐介教諭

学校の課題を解決するヒト型ロボットの動き（プログラミングの設計）を
考えます。

実践の概要

個人での思考活動や話し合い活動の中で思考の発散と収束を繰り返し行い、プログラミングの目的の深堀りと明確化を行います。

具体的には、①学校の課題を認識し、②課題の要因を考え、③その中からヒト型ロボットで解決すべき問題を抽出し、④めざす姿を設定して、⑤必要なヒト型ロボットの動き（プログラミングの設計）を考えます。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・一人ひとりが必要な時にいつでも前時までの流れを確認できることで、話し合いの目的や方向性を見失わずに進めることができました。
- ・カードを送ったり、コピーしたりすることが簡単にできるため、時間の短縮につながりました。

実践の目標

- ・世の中に役立つものが自分たちの手で創り出せることを体験する。
- ・「(アイデアを)出して、分けて、しぼる」というキーワードのもと、話し合い活動の中で、思考の発散と収束を意識できるようになる。
- ・シンキングツールを活用することにより、思考の整理ができるようになる。

実践の場面

1. 学校の課題を共有・分類する

学校の中にどんな課題があると感じているか、グループごとに共有する。でてきたアイデアをKJ法でグルーピングし、その中で一人ひとりが解決すべきと考える課題を1つ選ぶ。

国語科の「提案文を書こう」の中で、すでに学校の課題について一度考えていることもあり、さまざまな意見が出た。

提案文との違いは、自分たちで改善できるものという点であり、その違いを意識しながら、解決すべき課題を選んでいく。

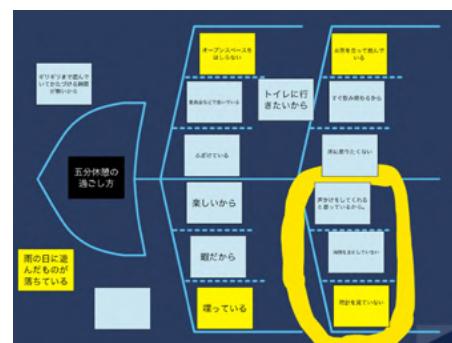


2. 課題の要因进行分类する

選んだ課題ごとのグループに分かれて、課題の要因を検討していく。出てきた要因をフィッシュボーンを使って整理する。

その中から「人が解決すべきもの」「ヒト型ロボットで解決できそうなもの」を選ぶ。フィッシュボーンにまとめていく過程で新たな意見や、より具体的な意見が数多く出ていた。

本来、フィッシュボーンでは、主要因を出して、その後細かな要因へと移っていくが、その手順だと①児童間で「主要因」のレベル感がまちまちで議論が活発にならないこと、②グループごとに課題が異なるため、4Mなどの指標をしめすことができないことから、今回は課題の要因を自由に出してからまとめるという手順とした。



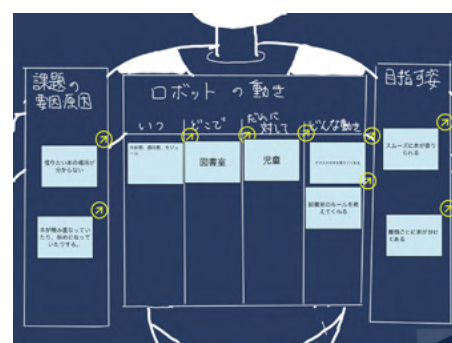
3. 選んだ要因に対して、あるべき姿・めざす姿を考える

選んだ要因に対して、学校のあるべき姿・めざす姿を相手や場面を想定しながら考える。具体的に考えられるように、「いつ」「どこで」「だれが」「どんな姿・思い」といった項目を入れたワークシートをカードとして用意した。

課題の 要因/原因	学校の目標/姿			
	いつ	どこで	だれが	どんな姿・思い
授業中の課題	授業中	教室	先生、生徒	授業中に課題を 取り組む姿
授業中の課題	授業中	教室	先生、生徒	授業中に課題を 取り組む姿
授業中の課題	授業中	教室	先生、生徒	授業中に課題を 取り組む姿

4. めざす姿を実現できるヒト型ロボットの動きを考える

ヒト型ロボットの先にいる相手を意識して、動きを考える。具体的には「相手のどんな動きに対して」「どのセンサーで」「どんな動き」をヒト型ロボットがすればよいか、場面や相手をしっかりと想定しながら考える。



5. ロールプレイングとプログラミングの実施

ヒト型ロボット役と相手役に分かれてロールプレイングを行う。相手役には場面のみを伝え、いつも通りにふるまうようにしてもらい、ヒト型ロボット役が想定した通りに作動するか確認をする。多くのグループで、相手の動きの想定が不十分なため、ヒト型ロボット役がまったく作動せずに終わったり、想定外の動きをしたりしていた。ロールプレイングでの情報をもとに、場面の想定などをより客観的な視点で考えながら話し合いを進め、その後自分たちで考えたヒト型ロボットの動きをカタチにするため、各自プログラミングを実施した。



やさしいまち

ロイロノート・スクールを活用して、自分たちが暮らす街の課題を整理してグループ化する活動から新たな課題や共通点を見つける授業を展開します。

実践の概要

「福祉」をテーマに自分たちが暮らしている街が誰にとっても優しいかどうか、また、優しい街にするために自分たちがどのようなことができるかを考えていきました。高齢者疑似体験や車いす体験など、体験学習を導入して、実際に学校の周りや学区に出るフィールドワーク活動や、インターネット・書籍・インタビューなどを活用して調べ学習を行いました。

本時では、ロイロノート・スクールを使ってインタビューの動画や、高齢者や障害者にとって優しいもの、優しくないものを写真として資料にし、考えたことや分かったことをカードにまとめていきました。まず、高齢者や障害者が生活するうえで困っていることをロイロノート・スクールのカードに書き出し、シンキングツールを用いて、困っていることが書かれたカードを整理しながら話し合いを行います。そして、共通していることや特に困っていることを簡単な言葉でまとめてホワイトボードに書き、黒板に貼ります。全体で話し合いながらグループ化し、どのような種類・テーマで困っていることなのか、児童の考えから名前をつけさせました。

最後に、整理したことで見えてくる共通の課題について、自分たちにも取り組みやすいことがあることを児童の発言から気付かせるようにしました。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・調べ学習の際に、街の様子を撮影したり、インタビュー動画を撮影したりすることで、情報を素早く具体的に手に入れることができました。そこから分かることや考えたことをカードにまとめることで、児童の思考の流れと学習の流れが分かりやすくなりました。
- ・教師も児童の学習過程を把握しやすく、児童にとっても課題に対して集めた情報を整理、分析、発信しやすいものとなりました。

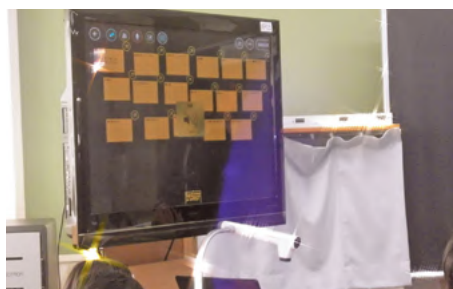
実践の目標

- ・「高齢者」、「視覚障害者」、「車いすを利用している方」が生活するうえで抱えている課題から、共通している課題や個別の課題に気付くことができる。
- ・道路や建物などハード面の課題や、声掛けなど自分たちも取り組みやすいソフト面の課題があることに気付くことができる。

実践の場面

1. 自分たちの学習を振り返り、本時の課題へつなげる

前時までにロイロノート・スクールの黄色いカードに、高齢者や障害者が生活するうえで困っていることを1つずつ書いておいた。たくさん書き出している児童のカードをもとに、整理する必要性を確認する。整理したものから見えてくるものや、分かることを考えようということを、本時の学習課題とした。



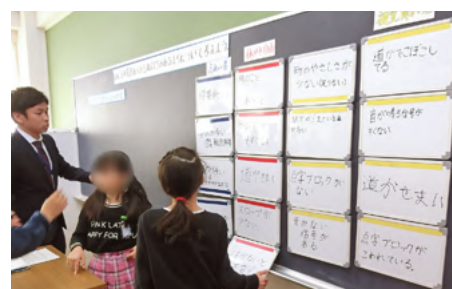
2. シンキングツールで、困っていることを整理する

シンキングツールの「クラゲチャート」、「ペン図」、「ピラミッドチャート」など他の授業で活用したものから1つ選んで、それぞれが共有した困っていること（黄色いカード）を整理しながら話し合っ整理していく。そして、共通して言えることや、特に困っていることなどを考えていった。



3. 共通していることを簡単な言葉でまとめる

例えば、「道路に段差がある」、「でこぼこしている道が通りにくい」「スロープがない」などといった黄色いカードを整理させ、「道が通りにくい」といった簡単な言葉でまとめさせる。そして、共通していることを一つにまとめていき、まとめた言葉をホワイトボードに書いて、黒板に貼る。



4. 全体で話し合いながらグループ化する

導入と同様に、たくさん出てきた困っていることをさらに整理していく。「同じだ」、「似ている」といった児童のつぶやきを拾いながらなぜそう思うのか理由を述べさせ、全体でグループ化していった。



5. グループ化したことに名前をつける

ホワイトボードを動かして、グループ化したものがどのような種類、テーマの困っていることなのか児童の考えから名前をつけた。その際、道路や建物などのハード面と自分たちも取り組めるソフト面と、個別のものとうまく分かれるよう整理した。



6. 整理したことで見えてくるものは何か考える

「高齢者」、「視覚障害者」、「車いすを利用している方」それぞれが困っていることを調べてきたが、実は共通した課題があることが見えてきた。また、自分たちにも取り組みやすいことがあることを児童の発言から気付かせるようにした。



日本の昔話を英語で読もう

立命館小学校

正頭 英和教諭

ロイロノート・スクールを活用して、協同学習と個別学習を

1時間の授業の中に組み込むので、学びの深い授業が実現します。

実践の概要

班のメンバー（5人班）に、それぞれ違う情報が書かれた英文を配布し、まずは受け取ったカードを自力で読み取ります。クラス全体で同じカードを持っている人同士集まり、音読練習と意味の確認を行います。

練習後、それぞれの班に戻って、読み取った内容を発表し合います。

5つの情報が全て揃うと、ある「お話」が浮かび上がってくるので、それが何かを班で考えていきます。それから、ある「お話」のストーリーを6つに分解し、バラバラに並べ替えたものを全員のロイロノート・スクールに配布します。まずは個人で話の内容が通るようにカードを順番に並べ替えて、その後グループで相談して正しい答えを作り上げ、教師にロイロノート・スクール上で提出します。

そして、「お話」を100words程度にまとめたものを配布し、音読練習をした後レコーディングをして、教師に提出します。教師は提出された音読を確認し、発音の指導を書き込んで、生徒に返却します。生徒はフィードバックを受けた後、教師のモデル音声を録音したものを聞きながら、自分で発音を修正します。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・ロイロノート・スクールは、全体に情報を送る機能だけでなく、個別に情報を送る機能があります。
これを活用すれば、グループの中に情報の差を作ることが可能になり、コミュニケーションの必要性を創り出すことが可能になります。協同学習の空間を創り出すために非常に効果的な機能だと思います。
- ・「教師の模範音声」を送ることができたり、「生徒の英語音声」を送らせることが、他の方法よりも簡単に行うことができます。生徒達に自分の英語を振り返らせることが可能になり、教師の英語を何度も聞かせることができる機会を確保することができるので、「音」のやり取りをする英語授業において画期的だと感じます。
- ・従来の方法では、45分の授業の中で30人近い人数全員が発話することが難しかったのですが、ロイロノート・スクールを活用することによって、一定量のアウトプットをクラス全員で行うことが可能になりました。

実践の目標

- ・初見の英文を友達と協力して、意味を理解し、音読することができる。
- ・400words程度の英文を友達と協力して、意味内容を読み取ることができる。
- ・100words程度の英文を、適切なスピードで音読することができる。

実践の場面

1. カードを読み取る（個人：Reading）

班のメンバー（5人班）に、A,B,C,D,Eの5つ、それぞれ違う情報が書かれた英文を配布する。クラス全体で6つの班があり、それぞれの班に同じようにカードを配布する。

まずは、受け取ったカードを他人に相談することなく、自力で読み取るようにする。



2. グループで音読練習と内容確認をする（グループ：音読）

クラス全体で、Aのカードを持っている人同士、Bのカードを持っている人同士、それぞれのカードごとに集まり、音読練習と意味の確認を行う。その後、各自の班に戻ってから情報をしっかりと伝える責任があるので、ここでしっかりと音読できるようにしておくことを促す。こうすることで、全員に責任感が生まれる。



3. 班内でレポートをし、相談する （グループ：Speaking and Listening）

練習後、それぞれの班に戻って、読み取った内容を発表する。班のメンバーの5つの情報が全て揃うと、ある「お話」が浮かび上がってくるので、全員の発表を聞いた後、それが何かを班で考えていく。



4. シャッフルストーリーを行う（個人・グループ：Reading）

ある「お話」のストーリーを6つに分解し、バラバラに並べ替えたものを全員のロイロノート・スクールに配布する。まずは個人で話の内容が通るようにカードを順番に並べ替えていく。その後、グループで相談して正しい答えを班内で1つ作り上げ、教師にロイロノート・スクール上で提出する。この時、話し合いが円滑に進むよう、紙媒体のカードも1グループに1セットずつ渡して、活用してもいいことを伝える。



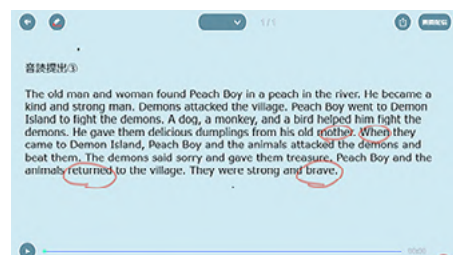
5. リスニングとシャドーイングを行う（個人：Listening）

「お話」を100 words程度にまとめたものを全員のロイロノート・スクールに2枚ずつ配布する。2つのカードは同じ内容が書かれているが、色で分けられており、その内の1つ、ピンク色のカードには、教師の模範音読が録音されている。その模範音読を聞きながら、生徒達は発音が分からないところを確認し、シャドーイングの方法を活用して、それを制限時間以内に音読できるように練習する。



6. レコーディングとフィードバックを行う（個人：音読）

2つ配布したカードのもう1つ、青色のカードに音読をレコーディングし、教師に提出する。教師は提出された音読を確認し、発音を直した方がいい部分に手描き機能を使って赤い丸で書き込む。それを生徒に返却し、生徒はモデル音声を聞きながら自分で発音を修正する。どうしても個人指導が必要だと教師が判断した場合は、その生徒に個別指導をする。



話の大事なところを聞こう ～メモを取ってみよう～

茨城県立水戸飯富特別支援学校
宇野 明莉教諭・小野瀬 かほり教諭

ロイロノート・スクールを活用して、人の話を注意深く聞くことや、
重要なことを落とさないように聞く力や態度を育てます。

実践の概要

メモを取る場面で、書くときに内容を忘れてしまう児童、相手の話していることを全文書いてしまうなど、話や文章の中から、重要なことを理解する力がまだ十分に身につけていない児童に対して、ロイロノート・スクールを使用し、自分と友達のメモを確認したり、読み比べたりすることで、より良いメモの取り方に気付くことができるようにしました。

まず、読み上げられた数字を素早く書く「数字メモ」に取り組み、正しくメモを取ろうとする意識づけを図ります。次に、児童たちは「いいとみ消防隊になろう」という設定でそれぞれ役割を決めて消防署で働く人になります。指揮隊が出した出動命令を聞き取ってタブレットにメモを残す活動をしました。時間や場所などのメモを取る観点を伝えることで、聞き取るポイントを意識できるようにしました。

そして、工夫した書き方をしている児童のカードをロイロノート・スクールで全体に提示し、どこが良いところかを全員で考えました。互いのメモを見合うことで、全員が正しくメモを取れたことについて確認し、友達と達成感を共有できるようにしました。

また、役割を交代した際、どのようにメモを取れば効果的か考えて取り組めるようになっていました。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・児童の学習内容を、即時画面に表示したり比較したりすることが簡単にできます。
- ・教師の工夫で、授業の可能性が広がることを実感しました。

実践の目標

- ・必要な内容を2つ聞き取り、単語でメモを取ることができる。
- ・1回で必要な内容を2つ聞き取り、メモを取ることができる。
- ・内容を聞き取り、必要な内容だけメモを取ることができる。
- ・話を聞きながら、必要な内容を聞き取ってメモを取ることができる。
- ・必要な内容を絞って、メモを取ることができる。
- ・ロイロノート・スクールを使用し、自分や友達の答えを確認したり、比較したりすることができる。

実践の場面

1. 「数字メモ」にチャレンジする

5×5マスのシートに、聞いた数字を素早く書く「数字メモ」にチャレンジした。シートを友達と交換し、答え合わせをすることで、正しくメモを取ろうとする意識付けを図ることができた。お互いに丸を付け合うことで、客観的な立場で採点することができるようになった。

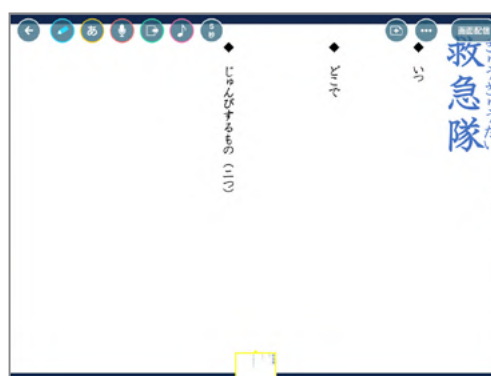
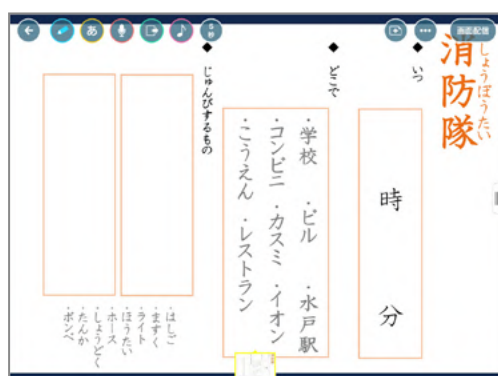
2. 自分のミッション（目標）を確認する

タブレット端末を使用するにあたっての約束を伝え、1人1台ずつタブレットを渡す。ロイロノート・スクールで比較しやすくするために、タブレットに文字を書く際、ペンの色は黒、直す時は青とすることを伝えた。そして、カードに個別のミッション（目標）を提示することで、本時の課題を意識して取り組めるようにした。



3. 指示の内容を聞き取ってメモを取る

「いいとみ消防隊になろう」という設定で、指揮隊（1人）、救急隊（2人）、消防隊（2人）の役割に分かれて、それぞれの役割が書かれたヘルメットを準備し、自分の役割を意識できるようにした。指揮隊が出した出動命令（いつ・どこで・準備するもの）を聞き取り、タブレットにメモを残す活動をした。時間や場所などの「メモを取る観点」を伝えることで、聞き取るポイントを意識することができるようにした。消防隊と救急隊が内容を聞き逃した場合、指揮隊に聞き逃した箇所を質問して良いことを伝え、自分で正しい内容に気付くことができるようにした。



4. メモの内容を比較する

工夫した書き方をしている児童のカードをロイロノート・スクールで全体に提示し、どこが良いところかを全員で考えた。互いのメモを見合うことで、全員が正しくメモを取れたことについて確認し、友達と達成感を共有できるようにした。きちんとメモが取れていることを、お互い主体的に評価し合うようになり、役割を交代した際に、どのようにメモを取れば効果的か考えて取り組むことができるようになった。



宮沢賢治「やまなし」「イーハトーヴの夢」

台北日本人学校
稲木 健太郎教諭

作品にふさわしい挿絵を考える活動を通して、
作品世界や主題、作者性についての読みを深めます。

実践の概要

単元学習を終えた後、探究的課題として「『やまなし』の挿絵コンクール プレゼン大会」を設定しました。作品にふさわしい挿絵はどのようなものか、児童は自分が絵本作家になったつもりでプレゼンテーションを行います。挿絵のイメージを語るためには作品や作者について各自の理解を深め、主題に迫ることが求められます。また、挿絵をキーワードにすることで、色や雰囲気、登場人物の様子などへの分析活動へとつなげることができます。こうした探究的課題への取り組みを通して、本作品で重要な「情景を読む」力が養われると考えました。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・情景を比較するときに、カードを並べて表示できるので、比べて考えやすかったです。
- ・「提出箱」にある友達のイメージを全体で共有することで、自然と議論が起き、自分の解釈が深まりました。
- ・学習の記録を、カードに整理して残すことができました。
- ・シンキングツール機能「ピラミッドチャート」を使うことで、主張カードと根拠カードを明確に区別し、話の構成を整理して考えることができました。
- ・自分の解釈や情景を読み取った記録(カード)を、そのままプレゼンテーションに使用することができました。

実践の目標

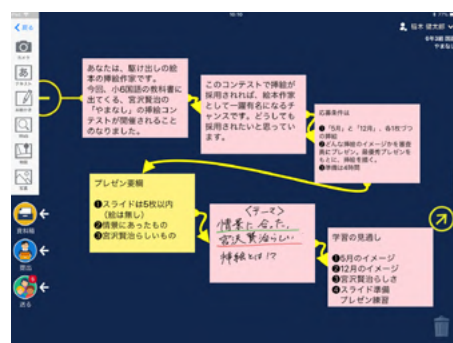
- ・情景に注目しながら、作品ならではの豊かな表現を読み取ることができる。
- ・作者が著した複数の作品や作者の伝記などから、作者の理想や信念、思いなどを読み取ることができる。
- ・情景と登場人物の言動、作者らしさを関連付けながら、作品の主題について自分の解釈をもつことができる。
- ・根拠をもとに、自分の思いを明確に伝えることができる。

実践の場面

1. 本時の探究的課題を設定する

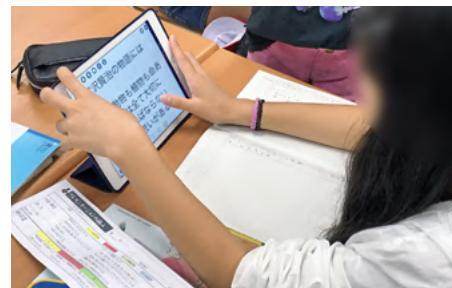
本単元では、5年生の時に学んだ情景に注目した読みをもとに、登場人物の言動や情景から物語のイメージをつかむ学習を行った。

探究的課題の設定にあたっては、作者の伝えたいことや物語の面白さがまだ分からないという児童の感想から、物語の理解に重要な働きをする「挿絵」をキーワードとし、作品のイメージに合う「挿絵」とはどんなものかという課題を設定した。挿絵を考える際には教科目標に迫るため、①作品のイメージ(情景)に合うもの、②「作者らしさ」が表れるもの、という2つの条件を提示した。



2. 自分のイメージを広げ、物語を解釈する

「やまなし」について、児童それぞれの「今の読み」をアウトプットするため、情景と登場人物の言動から伝わってくる「五月」と「十二月」の幻灯のイメージをロイロノート・スクールのカードに書かせた。本文に根拠を求めながらイメージするよう促した。



3. イメージと解釈を共有し、比較、関連付けを行う

場面2で各自が作成したカードを全体で共有した。

全体共有により、様々なイメージに触れることができ、自分のイメージに近いもの、異なるものはどれかという視点から、イメージを比較・関連付けながら自分の読みを明確にしていっていった。

また、今後のプレゼンテーションの参考にするため、特に納得のいく友達の意見を自分のノート上に保存させた。



4. グループで議論をし、プレゼンテーション用のカードを作成する

グループでのプレゼンテーションに向け、グループでそれぞれの解釈を共有し、イメージや根拠を議論させた。カードの上限を5枚とし、議論の中で出た考えを取捨選択しながら、グループの全員が納得できるカードづくりに取り組んだ。

この活動を通して、場面2で行った各自の読みが根拠をともなった「確かな読み」へと進めることができた。



5. プレゼンテーションに向け、ピラミッドチャートで主張と根拠を明確化する

グループで作成したカードをもとに、プレゼンテーションの構成を考えた。シンキングツール機能の中から「ピラミッドチャート」を使い、自分たちの主張と根拠を整理しながら、話す内容を深めていった。ピラミッドチャートの最上段には、どのような挿絵がふさわしいかという主張、中段と下段には主張を支える根拠（場面のイメージや情景描写、作者らしさ）を配置するよう指示した。



6. 「やまなし挿絵コンクール」のプレゼンテーション大会を行う

「どのような挿絵がふさわしいか」というテーマで、グループごとにプレゼンテーションを行った。本学習を終えた児童の振り返りには、「初めはよく分からなかった物語が、『挿絵』について考えることで、場面ごとのイメージがわいた」、「作者の思いや信念を調べることで、読みが深まることが分かった。他の作者でもその人の大切にしている考えを探って読んでみたい」といった記述が見られた。探究的な読みが必要となる課題設定を行ったことで、教科の目標を達成することができた。



くずれ落ちた段ボール箱

ロイロノート・スクールの回答共有機能を用いて、他の児童の考えを知ることで自分の考えを深め、誰に対しても親切にしようとする心情を育てます。

実践の概要

資料「くずれ落ちた段ボール箱」(出典：東京書籍『道徳5 希望を持って』)の前半を読み、おばあさんのために親切な行為をした、“わたし”の気持ちを考えさせます。“わたし”の行為を「してよかった」という場合はピンク色、「しなければよかった」という場合は緑色の付箋紙に自分の考えを書きます。それをワークシートに貼り、カメラで撮影してロイロノート・スクールの提出箱に提出します。提出後、ペアでワークシートを見せながら交流し、互いの意見を知ります。さらに、ロイロノート・スクールの回答共有機能を用いて、他の児童の意見を知ります。

そして、詳しく意見を聞いてみたい児童を相互指名して、発表を聞きます。交流後、自分の考えがどう変わったか・深まったのかを付箋紙に書いて再び提出し、交流前と後でどれくらい考えが変わったのか全体で確認します。その後、資料の後半を読み、“わたし”の気持ちに共感できるようにし、自分たちのこれまでの経験などを話し合います。

最後に授業の振り返りとしてCMを見せ、相手の立場に立って親切を行うことの実践意欲を高めました。

ロイロノート・スクール導入のメリット

道徳の学習は「一問一答式」になり、児童が受け身の姿勢になりがちでした。ロイロノート・スクールを用いることで、教師も児童も一人ひとりの意見を把握できるようになりました。様々な考えを知ることができるので、自分の考えを深め、普段発表しにくい児童が積極的に参加できるようになりました。

実践の目標

思いやりの心を持って行動することの良さを考えることを通して、相手の身になって考え、誰に対しても親切にしようとする心情を育てる。

実践の場面

1. 資料の前半を読み、“わたし”の気持ちを考える

資料「くずれ落ちた段ボール箱」を読み、おばあさんのために親切な行為をした“わたし”の気持ちを考えさせる。

「してよかった」と思う児童はピンク色の付箋紙、「しなければよかった」と思う児童は緑色の付箋紙に自分の考えを書く。

付箋紙をワークシートに貼り、カメラで撮影してロイロノート・スクールで提出する。



2. 友達の意見を知る

集まった回答を一覧表示して大型テレビに映し、何色の付箋紙に書いたのか分かりやすいようにする。

ペアでワークシートを見せながら、お互いの考えを交流する。

ペアで交流後、ロイロノート・スクールの回答共有機能を用いて、他の児童の考えを見る。たくさんの友達の考えを知ることができるので、児童たちはじっくりと見ていた。



3. クラス全体で考えを共有する

回答共有で他の児童の考えを知ることができたので、もっと詳しく聞いてみたい考えを書いた児童を相互指名して発表を聞く。

自分とは反対の考えを書いた児童を指名して、より詳しく考えを聞こうとする姿勢が多く見られた。



4. 自分の考えを再び書いて提出する

全体での交流後に自分の考えがどう変わったか・深まったのかを付箋紙に書いて、再び提出する。友達の考えを聞き、自分の考えに変化があった児童も見られた。交流前と交流後の回答一覧をスクリーンショットで保存しておき、どのくらい考えが変わったのか全体で確認をした。考えにより付箋紙の色が違うので、色の判別で変化の様子がよく分かった。



5. 資料の後半を読み、自分の生活を振り返り見つめる

後半部分を読み、親切な行為をした“わたし”のすがすがしい気持ちに共感できるようにする。相手の気持ちを考えて温かく接することは気持ちの良いことだと感じ取らせるため、自分たちのこれまでの経験を話し合うようにした。



6. 学習の振り返りをする

「思いをかたちに」のCMを見ることで、相手の立場に立って親切を行うことの実践意欲を高めた。



英語の音読 個別指導

同志社中学校・高等学校

反田 任教諭

英語の音読練習で、ロイロノート・スクールで録音・試聴を繰り返して音読回数を増やすことで、発音が向上します。

実践の概要

まず、教師が作成した「音読チェック」カードを生徒に送信します。

音読に時間制限を設定し、一定のスピードで読まないと全文が録音できないようにします。

生徒は教師から送られてきた音読カードに録音します。

録音時間が設定されているので時間内に録音しないと後半が途切れてしまいます。そのため、生徒は録音をして、試聴をするということを繰り返し行います。録音ができたら、教師に送信します。

教師は、生徒の音声をチェックします。手書きでチェックを入れたり、発音、アクセントが間違っていたところに印をつけたり、簡単なアドバイスとともに生徒に評価を返却します。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・今まで授業時に行っていた音読テストが非常に実施しやすくなりました。
 - ・生徒が個別に録音したファイルを教師に送信することにより、個別指導が充実するようになりました。
 - ・音声ファイル提出までに生徒の発話回数が増え、教師の工夫次第で生徒の音読のレベルが上がりました。
 - ・生徒は家庭からでも教師に送信でき、十分に練習を重ねた上で録音し、提出が可能になりました。
 - ・教師はアドバイスが必要な箇所を聞き逃すことなく、何度でも聞き返すことができます。
 - ・今まで音読テストのために英語の授業時間を充てていましたが、ロイロノート・スクールを活用することにより、授業時間を他の内容や指導のために有効に使えるようになりました。
- また、生徒の音読練習の回数も無意識のうちに上がるなどメリットが多いです。

実践の目標

英語の文章を音読する際に、

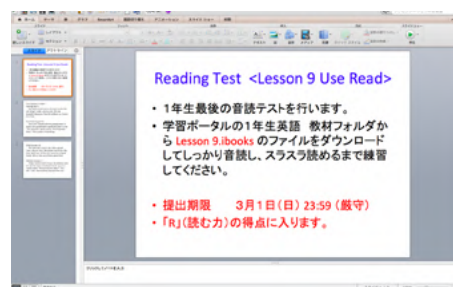
- (1) 単語の発音、アクセントや英文のイントネーションが正確であること、
- (2) 自然なスピードで音読できることに重点を置き、声に出して英語を読むことを楽しみながら、英語力の向上を目指す。

実践の場面

1. 教材の準備をする

教師はPowerPointやKeynoteなどで「音読チェック」の英文原稿を作成する。それをPDF形式で保存し、Dropboxなどのクラウドストレージやメールで送信する。

タブレット側のロイロノート・スクールで開くと、自動的にカードが作成される。



2. 生徒へカードを送信する

作成した「音読チェック」カードを生徒に送信する。

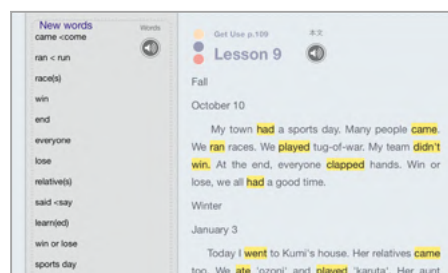
カード作成の際に、自然なスピードで音読する際の時間に録音の秒数を設定する。そうすることでカードの音読に時間制限が設定されるので、一定のスピードで読まないと全文が録音できない。生徒が録音する際の目安としても有効である。

秒数の設定は、少しハードルが高い方が生徒の意欲が高まる。



3. 生徒が個人で音読練習をする

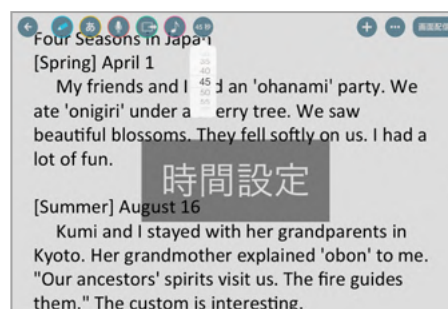
個人練習のために、あらかじめ音読モデルのオーディオファイルや、「iBooks Author」で作成したデジタル教材を生徒に配信しておく。また、生徒は「Speak It!」、「Dragon Dictation」などのアプリを用いて音読のモデルを聴いたり、発音を練習したりして録音に備える。



4. 音読カードに録音して、教師に送信する

生徒は教師から送られてきた音読カードに録音する。録音時間が設定されているので、その時間内に録音しないと後半が途切れてしまう。そのため、生徒は録音→試聴を繰り返す。

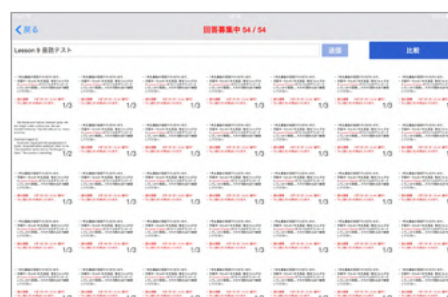
また、時間内に録音するために練習を繰り返すので、音読の回数も自然に増える。音読回数が増えることで、発音も向上するケースが多い。録音ができたら、教師に送信する。



5. 提出された生徒の音読ファイルを一覧表示する

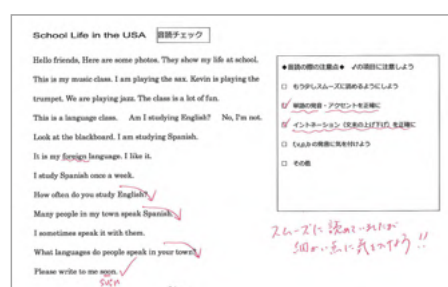
ロイロノート・スクールでは提出の状況が一目瞭然なので、未提出の生徒へのアプローチの助けになる。また、教師が試聴して音声が入手く入っているかどうかをチェックできる。

不完全な場合は再度録音・送信を容易にすることができる。



6. 音読チェックをして生徒へフィードバックする

音声チェックをしたあと、ロイロノート・スクールで評価して返却することも考えられるが、あえてここは、授業時に紙ベースで評価を返す。ロイロノート・スクールで返却すると、すぐに見ない場合があり、フィードバックの効果が薄れるおそれがあるので、音読チェックの英文をあらかじめ簡単な評価項目とともに印刷しておく。手書きでチェックを入れたり、発音、アクセントが間違っていたところに印をつけ、簡単なアドバイスとともに生徒に返却する。



生徒によるテスト解説

「生徒による」テスト解説を行うことで、教えあい・学びあいを深めていきます。

実践の概要

これまで教師が行なっていたテスト返却後の解説を、生徒が自ら解説する取り組みを行いました。解答の導き方をグループで話し合い、解説資料を作成します。その後、ペアで生徒役と先生役に分かれ、質疑応答をする場面をタブレットで録画(録音)します。その様子を提出し、全員で共有します。優秀な解説は資料箱へ入れ、学年の生徒全員が見られるようにしました。この解説活動を通して、生徒同士の教えあいや学びあいを深めることができました。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・生徒によるテスト解説を行うことで、生徒による主体的な活動が生まれ、生徒同士の教えあい、学びあいが生まれた。
- ・ロイロノート・スクールを活用することによって個別指導が容易となり、ポートフォリオとして残すこともできるようになった。
- ・個人と全体でのやりとりがスムーズにできるため、個別指導や全体指導につなげやすい。
- ・ロイロノート・スクールを活用した授業を重ねることで、教師の役割について考え直すようになった。「生徒が自ら学び、学習を深める」ことを重視した授業スタイルへの変容を実感している。

実践の目標

- ・文法かるた(かるた形式で文法事項を説明したプリント)を参考にし、論理的に問題の解説ができる。
- ・資料はロイロノート・スクールで作成し、学習者が理解しやすい解説、見ていて楽しめる解説を作ることができる。
- ・生徒役は問題に対してどんどん質問を、先生役はその質問に対して解説を行い、その場面を録画(録音)することができる。

実践の場面

1. 解説する問題を提示する

教師はテストを返却後、解説をせずに全体的に間違いが多かった問題を提示する。生徒に解説してもらう問題は、①テスト問題全部、②自分が間違えた問題のみ、③正答率が低かった問題の3パターンに分類した。(授業中にこの活動を行う場合は、授業時間の関係上、③の正答率が低かった問題の解説を生徒にってもらうことが多い。)



2. 問題の解き方や文法的な理由付けについて考え、意見交換する

どのように解けばよいのか、「文法的な理由も含めて」4～5人班のグループで話し合う。勘や何となく解くことから脱却し、学習した文法上のルールを活用して、論理的に考えることを意識させる。また、グループで解き方について話し合う時は、必ずメモを取り、実際に解説を録音するときの資料とした。



3. 解説に必要な資料を作成する

割り当てられた問題とその答えをロイロノート・スクールのカードに記入する。後に解説を録音する際、見てくれている人が理解しやすいよう資料を工夫して作成するよう指示した。

また、オリジナリティを持って説明するよう指示すると、生徒は試行錯誤して楽しい文法解説を考えてくれた。



4. 解説の様子を録音（録画）する

解説している様子をタブレットで録画、または録音をする。

その際、個人で解説を行う、もしくは生徒役と先生役に分かれ、質疑応答をする場面を録音、録画するようにした。解説時間は短めに設定し、短い時間の中で分かりやすい解説を行うよう心掛けることを指示した。生徒役と先生役に分かれて解説を行う場合は、生徒役の人には全く理解できていない設定にし、沢山の質問を先生役にぶつけることとした。先生役の人はその難しい質問にも的確にわかりやすく答えられる必要がある。



5. クラスメイトが作成した解説を視聴し、相互評価する

録音、録画を終了した後、そのカードを教師に送り、生徒と「回答共有」をした。生徒は、クラスメイトが作成した解説を視聴できるので、各々が相互評価する。それを見て、自分の説明間違いや、より良い解説方法などを発見した生徒は撮り直しをしても構わないこととした。



6. 学年の中で優秀な解説をピックアップして紹介する

教師が評価、生徒へのフィードバックをした後、優秀な解説はロイロノート・スクールの資料箱に入れ、学年の生徒が見られるようにした。生徒はそれを見てテストの復習を行い、自学ノートにまとめる。自分の解説が他人に聞かれることにより、いい解説動画を作ろうとする意識は高まるようだ。

また逆に、友達の優秀な解説を見ることによって、自分とは違った視点を持ち、学習を進めることができる。このように、生徒自身が考え、それを自分の口で説明することによって、教師は生徒の真の理解度を確認することができる。



一次関数の応用

ロイロノート・スクールを活用することで、生徒個人に合ったリズムで学習ができ、基礎を定着させる授業を実現します。

実践の概要

前回の授業で行った小テストを授業開始前に生徒たちに配信し、授業開始後にすぐ教師から配信された正解を見て、解答を確認します。

次に、前時の最後に生徒達が作成した一次関数のグラフの問題を、一覧表示して公開しました。

そして様々な問題の中から一問、面積の問題を選び、クラス全員で解答しました。

前回の授業の際に扱った問題の元になるグラフと、選んだ問題を生徒たちのタブレットに配信します。

生徒たちは画面に補助線や記号を書き込みながら解答を考えていきます。さらに、新たな文章問題を生徒のタブレットに配信し、その問題の解答に取り組んでいきます。問題設定の状態をグラフで表すためにグラフ用紙にグラフを書きます。グラフが書けたら、用紙をロイロノート・スクールで撮影して写真カードを教師のフォルダに提出します。授業の最後に、本時の内容を確認するため小テストを行います。指定の時間がきたら、教師のフォルダに小テストを提出し、本時のまとめとしました。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・小テストを印刷・回収・配布する時間が省けるので、授業中に空白の時間がなくなり、リズムよく授業が進みます。
- ・授業が始まる前にテストを返却しておけるので、授業開始前から自分の答えを確認でき、個々のリズムで学習できます。
- ・一斉に配信したり、生徒の解答を回収できるため、その段階まで全員が理解できているか確実に確認できます。今までの机間巡視だけでは見逃していた生徒も把握でき、安心して次の段階に進めます。
- ・教材をうまく整理しておけば、他クラスでもその教材を使うことができるので非常に便利です。

実践の目標

- ・小テストを友達と確認し合うことによって、基本知識を定着させる。
- ・生徒の自作問題をみんなで解くことにより、楽しんで応用問題に取り組む。
- ・新しい応用問題を、タブレット画面で色々試行しながら、繰り返し考えさせる。
- ・本時間の知識を小テストで確認する。解答時間の個人差を問題作りの時間とする。

実践の場面

1. 【授業前の休み時間】返却された小テストを友達と確認し合う

前回の授業で行った小テストが採点され、授業を開始する前にすでに個人のタブレットに返却されている。

休み時間内に小テストの正誤を確認する。

その際、友達と間違えた問題の話をしながら、自然と教え合い、学び合うことができる。



2. 【授業開始】小テストの解答を確認する

授業が始まったら、教師から配信された正解を見て、答えをしつかり確認する。問題用紙の返却や答えの配布、一問ずつの白板提示の必要がないので、時間を大幅に短縮でき、すぐに全員が確認作業に入ることができる。

生徒達の間違えている問題はそれぞれ異なるので、それぞれが正解している問題は飛ばして、自分の間違った問題の確認にじっくり時間をかけることができた。

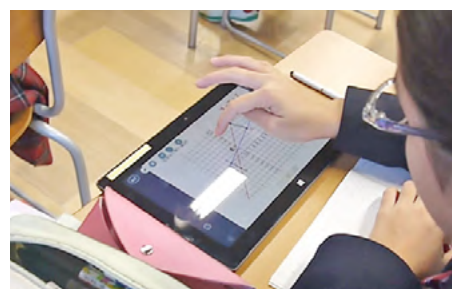


3. 生徒達が作成した問題を発表する

前回の授業では、一次関数のグラフを使った応用問題に取り組んだ。授業の最後にそのグラフを使って、それぞれ独自の発想で問題を作り、それを教師に提出した。

本時では、生徒達が作った問題を一覧表示して公開。

様々な視点から作られた面白い問題がたくさん出てきた。



4. クラスメイトの問題を解答してみよう

様々な問題の中から一問、面積の問題を選び、クラス全員で解答する。前回の授業の際に扱った問題の元になるグラフと、選んだ問題を生徒たちのタブレットに配信した。

生徒たちは、画面に補助線や記号を書き込みながら解答を考えていく。計算などは、「ロイロノート」と名付けた計算メモ用の大学ノートを使用した。



5. グラフを写真で教師に提出する

新たな文章問題を生徒のタブレットに配信し、その問題の解答に取り組んでいく。

問題設定の状態をグラフで表すためにグラフ用紙を配布し、その紙に鉛筆と定規で丁寧にグラフを書く。グラフが書いたら用紙を写真撮影して、教師に提出する。全員が理解できているか教師と生徒全員で確認しながら授業を進めていく。



6. 本時の知識の確認をする

授業の最後に本時の内容を確認するために小テストを行う。

問題を生徒たちに配信し、それぞれのタブレットで解答する。

この時も計算や思考は、計算メモ用のノート「ロイロノート」に書き入れ、答えのみを画面に書き込む。小テストが早くできた生徒は、今日使ったグラフから独自問題を作るというお楽しみ作業をできるようにした。指定の時間がきたら、教師のフォルダに小テストを提出し、本時のまとめとする。



拡大コピーに隠れた平方根を見つけよう

多治見西高等学校附属中学校

小木曾 賢吾教諭

ロイロノート・スクールとシンキングツールを活用して、
3段階で課題を解決して自分の考えを説明できる力を育成します。

実践の概要

本時では、A4のプリントをA3に拡大するために、倍率を何%に設定すればよいかを考えて、その理由を含めて担任の教師に説明することを課題としています。生徒一人ひとりが説明できるようにするためにシンキングツールのキャンディチャートを利用します。

まず、生徒に課題の説明をして、キャンディチャートで課題を考えて整理していくことを伝えます。キャンディチャートでは、左側に「もし～なら」、中央に「結果」、右側に「理由」のカードを置き、3枚をつなげることで説明がわかりやすくなるツールであることを確認します。1列目は見本として、「コピーに失敗した場合」について全員で一緒に埋めていきます。200%の拡大コピーによって、面積は4倍になったことを「なぜなら」のカードにまとめていきます。面積を2倍にするためには拡大率を何%にすればよいかを全員で一緒に考え、カードにまとめていきます。グループで相談しながら、2列目の理由のカードを作っていき、できた生徒から提出箱に提出させます。理由のカードを全員で確認した後、カードを言葉でつなげて、担任の教師に説明するための文を書かせました。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・シンキングツールを利用すると、思考の過程を残しながら考えを整理していくことができます。思考の過程が残っているので、最終的に文として書きあげやすくなります。
- ・シンキングツールを提出箱に提出させることで、クラス全員の考えを教師も生徒も確認できます。提出箱の共有は、早く済んでしまった生徒にとっても、なかなか進まない生徒にとっても、有効に活用できます。

実践の目標

- ・問題解決の見通しをもって、既習事項を活用しながら問題解決に取り組み、その過程をふり返ることができる。
- ・他者との学び合いを通して、自らの考えを表現したり、他者の考えを理解したりして、より良い考えを追求しようとする生徒の育成につなげていく。

実践の場面

1. 課題を提示する

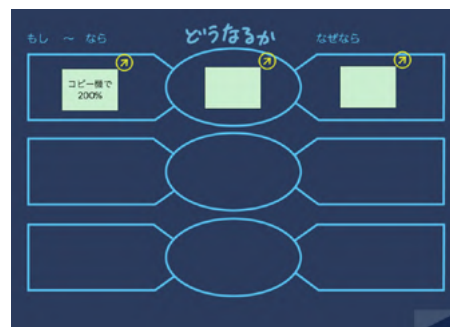
生徒に課題の説明をするため、「担任の先生がA4の紙をA3に拡大コピーしようとして、倍率200%にしたところ、失敗してしまいました」と話して、コピーをしようとしている写真を表示する。そして、倍率をどう設定すればよいか、なぜそのように設定する必要があるのか理由も含めて担任の教師に教えてあげることが課題だと伝える。



2. シンキングツールで考えを整理していく

キャンディチャートのシンキングツールを提示する。

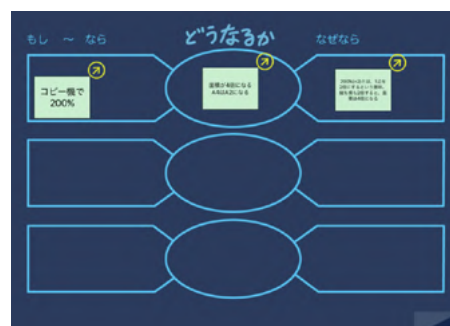
キャンディチャートでは、左側に「もし～なら」、中央に「結果」、右側に「理由」のカードを置き、3枚をつなげることで説明がわかりやすくなるツールであることを確認する。このチャートを使って課題を考えて整理していくことを伝えた。



3. キャンディチャートの1列目を見本とする

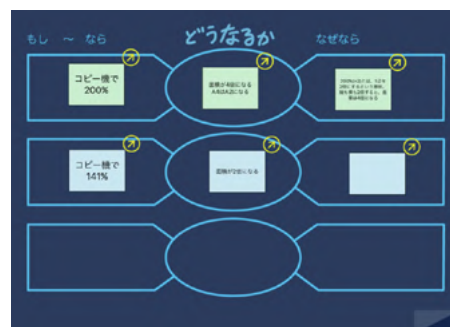
1列目は見本として、「コピーに失敗した場合」について全員で一緒に埋めていく。

拡大コピーの200%とは面積のことではなく、辺の長さのことであると確認させる。200%の拡大コピーによって、面積は4倍になったことを「なぜなら」のカードにまとめていく。



4. シンキングツールを配信して考えをカードにまとめる

面積を2倍にするためには拡大率を何%にすればよいかを全員で一緒に考える。その後、シンキングツールを生徒全員に配信してA4をA3に拡大するにはどう設定すればよいかを考え、カードにまとめた。



5. グループで理由のカードを作成する

グループでお互いに相談しながら、2列目の理由のカードを作っていく。できた生徒から提出箱に提出させる。

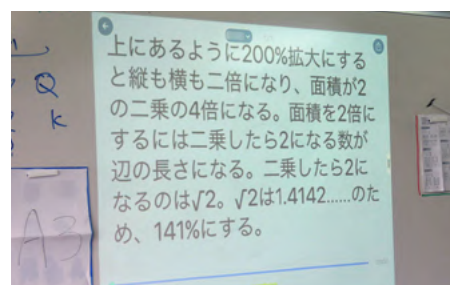
提出箱は共有しておき、上手く書けない生徒は見ても良いことにした。それでも時間内に書けなかった生徒には、カードの色を赤に指定して全員提出させた。



6. 2列分のカード(合計6枚)をまとめさせる

理由のカードを全員で確認する。

そのあと、2列分の6枚のカードを上手に言葉でつなげて、担任の教師に説明するための文をノートに200字以内で書かせた。書いた説明文は実際に担任の教師にも見てもらった。



電流についての基礎的な知識を身に付け、実験を行う

ロイロノート・スクールを活用して、意見を簡単に短時間で共有しながら
学習内容を深める理科授業を展開します。

実践の概要

まず、本時の学習内容に関する身の回りの事象やこれまでの知識についての問いを生徒へ投げかけます。

問いについて個々で考えた後、グループごとにまとめた考えをロイロノート・スクールで提出します。

教師は提出された考えを各生徒のタブレットに表示し、クラス全体の解答を共有します。

次に生徒は、教師から送られてきた実験のマニュアルを見ながら実験を行います。

実験後、実験結果から考えられることをグループ内で話し合い、ロイロノート・スクールのカードにまとめて提出します。それから、回答共有機能を使って他グループの考察と自分たちの考察を比較したり、教師から送られてきた知識をまとめたカードを利用したりしながら、本時の学習活動で理解した事柄をノートにまとめます。

授業の最後に、学習した内容に関する練習問題を一斉配信します。グループ内で考えたあと、全体で回答を共有し合い、教師が解説を行いました。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・ロイロノート・スクールを利用することで、授業の進行がスムーズになりました。提示した資料を随時生徒に配信できるようになり、生徒は見たい資料を十分見られるようになりました。
- ・これまで口頭が主であった実験結果や考察の共有が、ロイロノート・スクールを利用することで写真や動画を提示することができ、微妙な色や動きの違いを比較することができるようになりました。
また、画像や動画を利用したり、画像にポイントを書き込んだりしたりする姿が見られ、表現の幅が広がると共に学習に深まりが出たように感じます。

実践の目標

電流についての基礎的な知識を身に付け、実験結果について自分なりの考えを班で交流したあと、クラスで交流して結論を導き出すことができる。

実践の場面

1. 教師から生徒へ疑問を投げかける

これまで学習してきた事柄を踏まえ、本時の学習内容に関する身の回りの事象やこれまでの知識についての問いを投げかける。例えば、「棒磁石のどの部分が一番磁力は強いのだろう」、「蛍光灯と白熱電球はどちらが電気代が安いだろう」など、生徒へ問う。そして、答えの提出期限を設定する。

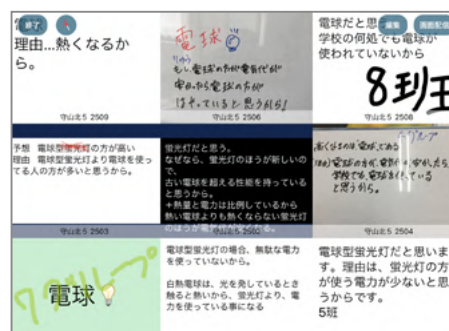


2. 本時の課題を作成する

教師が投げかけた問いについて個々で考えた後、グループごとにまとめた考えをロイロノート・スクールで提出する。

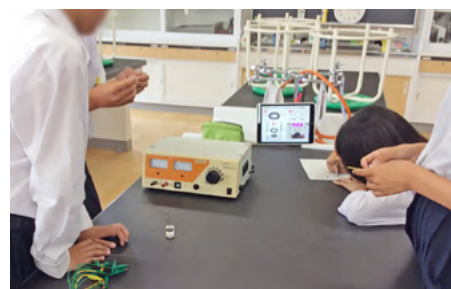
教師は、提出された考えを画面配信機能で各タブレットに表示し、クラス全体の解答を共有する。

他グループの意見を比較し、生徒が考えていることや疑問点を生徒全員が共有することができた。その疑問点を解決するため、本時の課題を考える足掛かりとした。



3. 実験マニュアルに従って実験する

生徒は、教師から送られてきた実験のマニュアルを見ながら実験を行う。教師はロイロノート・スクールで実験マニュアルを生徒に送信したあと、生徒の質問に答えたり、誤った実験をしているグループにアドバイスをしたりした。



4. グループで話し合った内容を提出する

実験後、生徒は実験結果から考えられることをグループ内で話し合い、ロイロノート・スクールのカードにまとめて提出する。

早く提出できたグループの資料をロイロノート・スクールで各生徒に送信する。そうすることで学習意欲が高まる生徒が増え、自分たちの結果と比べて実験を行ったりするグループが出てきた。



5. 結果を考察し、本時のまとめを行う

回答共有機能を使って他グループの考察と自分たちの考察を比較したり、教師から送られてきた知識をまとめたカードを利用したりしながら、本時の学習活動で理解した事柄をノートにまとめた。



6. 練習問題を解く

授業の最後に、学習した内容に関する練習問題をロイロノート・スクールで一斉配信する。グループ内で練習問題について考えたあと、全体で回答について共有し合い、教師が解説を行った。実験を行って結果について考察し、最後に練習問題を解くことで、学習の定着ができるようにした。



プラスチックが止まらない

～海洋へのマイクロプラスチック流出防止に向けた私たちの提案～

上越教育大学附属中学校

大崎 貢教諭

パフォーマンス課題における自己評価・他者評価の取り組み

実践の概要

海洋における生物多様性や、プラスチックごみ問題について考えるパフォーマンス課題を行った。
 自然事象において解決すべき課題に遭遇したとき、理科の見方・考え方を働かせて原因となる要素に気づき、現状をよりよくするための方策が立てられることをめざした。
 科学的な探究のプロセスにおいて、適した観察や実験の技能を定着できるよう、ルーブリックにもとづいて個人やグループで成果を評価し合い、進捗状況を即時的に共有して振り返りを行う活動を行った。
 ここでは、自己評価、相互評価の場面を抜粋して紹介する。
 生徒は課題の本質を自分事としてとらえ、見通しをもって粘り強く取り組むことができた。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・ロイロノート・スクールで自己評価・相互評価を行うことによって、評価の蓄積が容易にできました。
- ・画面上に思考のプロセスを保存・共有できるため、生徒が学習方略を獲得する手立てとして大変価値があると感じました。

実践の目標

パフォーマンス課題における生徒の振り返り（自己評価・相互評価）を主体的・共創的に進めることができる。

実践の場面

1. パフォーマンス課題を提示する

【パフォーマンス課題】

「2050年には、海の魚の量とプラスチックごみの量が同じになると言われている。現在、世界で海洋のごみ問題に関する対応が話し合われている。しかし、プラスチックは便利のため、使用禁止という選択は難しいだろう。これについて、海洋ごみ問題の解決に向け、あなたたちが考える具体的な方策について科学的な根拠を示し、他の人に分かりやすく説明しなさい。」

課題の設定にあたっては、「パフォーマンス評価のためのGRASPS (Wiggins & McTighe(2005))」を参考



2. 単元におけるルーブリックを作成する

本単元におけるルーブリックを作成し、パフォーマンス課題に対する意欲を高めた。

評価の視点に、「習得した知識の活用」「観察・実験の技能」「データの整理」を設定した。それぞれの視点におけるA評価の規準のみ教師から提示し、B評価とS評価は生徒自身が作成した。評価規準のアイディアをロイロノート・スクールに提出し、全員で共有しながらルーブリックを完成させた。

【プラスチックが止まらない（生態系） ルーブリック】			
	習得した知識の活用	観察・実験の技能	データの整理と活用
S 評価 (3点)	授業で習得した知識や用語以外に専門的な用語を調べ、説明に用いている。	他人に説明するための必要な観察・実験を適切に選定し、効率よく行っている。	得られたデータや資料などを科学的に考察し、説得的に説明している。
A 評価 (2点)	これまでの授業で習得した知識や用語を3つ以上使って説明している。	これまでの経験を生かして観察・実験の計画を立て、効率よく行っている。	観察・実験から得られたデータや資料から科学的な考察ができています。
B 評価 (1点)	これまでの授業で習得した知識や用語を1つまたは2つ使って考えを説明している。	観察・実験に必要な器具を適切に使っている。	観察・実験から得られたデータや資料を利用してはいるが、考察は不十分である。

3. 方策の根拠となる実験を行う

グループで課題に対する方策を考える中で、自分たちの方策を裏付ける観察や実験を行った。個人・グループの多様な試行錯誤の中から解決すべき課題等を発見し、根拠となる記録をロイロノート・スクールに蓄積した。



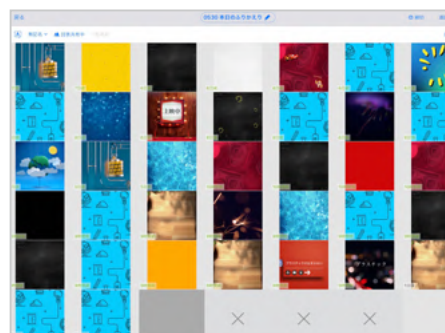
4. グループの方策となる根拠を全体で共有する

グループで観察・実験した結果や、方策立案のプロセスを全体に共有し、他者の考えと比較、検討した。また、遠隔で参加してもらったマイクロプラスチックに関する研究者（水川薫子：東京農工大学 農学研究院物質循環環境科学部門 助教）から適確な助言をいただいた。これにより次時以降、更に必要な調査活動や実験を行うための見通しをもつことができた。



5. 実験結果と本時の学びを動画にまとめる

毎時間の学びや観察・実験結果の写真や動画をまとめ、各自で1分程度のショートムービーを作成、共有した。次時以降、これらの動画を用いて、グループで考えた方策をプレゼンする。



6. 自己評価、相互評価を行う

生徒は、毎時間の振り返りをロイロノート・スクールに蓄積し、いつでも閲覧できるようにしている。自己評価・相互評価は、ルーブリックにもとづいて、カードの色を変えてコメントを記入した（S：ピンク、A：白、B：ブルー）。

グループ内だけでなく、グループを越えて協働して観察・実験等を行ったメンバーにもカードを送りあって相互評価を行った。即時的なフィードバックが可能となることで、生徒はその都度、目標を設定し直したり、実験手段を修正したりすることができた。



声に出して味わう『平家物語』

お茶の水女子大学附属中学校

渡辺 光輝教諭

ロイロノート・スクールの録音機能を活用して何度も音読を聴き、
音読の録音にチャレンジして、古典作品を読み味わう授業を展開します。

実践の概要

『平家物語』の「扇の的」と「敦盛の最期」の場面を、グループで音読を練習して録音する活動を行います。まずロイロノート・スクールで作成した簡単な○×問題を提示し、前時の活動内容を振り返りました。次に、教師が事前に準備した「敦盛の最期」の模範音読を全体で聴きながら、読み方や音読する時に注意するポイントを確認しました。グループで文章を下読みして、各場面をどのように表現したいのかイメージをまとめて話し合い、場面のタイトルを考えました。そのイメージに合うように、グループで分担を考えて音読で表現できるように練習しました。そしてグループのメンバーで分担して音読したものを、ロイロノート・スクールを用いて録音しました。自分たちのグループの録音を聴き合って確認し、イメージ通りに伝えられているのか、音読を聴いて振り返り、上手いかなかったと感じた場合は再度録音にチャレンジしました。最後に、録音データを教師に提出したところで授業は終了です。次回の授業ではお互いに聴き合い、他のグループの音読からも学んでいき、作品の読みをさらに深めていきました。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・教師の録音データを個人のタブレットに配付することで、何度も模範音読を聞き返すことができるため、自分の音読の参考にすることができました。
- ・レコーディングにチャレンジするというプレッシャーが、音読学習の動機づけになりました。また、人前で大きな声で音読することに抵抗感のある生徒も、意欲的に取り組むことができました。
- ・失敗したら何度でも撮り直してチャレンジすることで、古文の文体に自然に親しむことができました。
- ・自分の音読を聴いたり、お互いの音読を聴いたりすることで、音読の表現を磨き合うことができました。

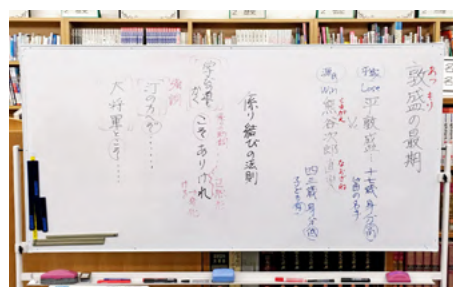
実践の目標

『平家物語』の文章を朗読して、その独特の調子やリズムに慣れ、作品を読み味わう。

実践の場面

1. ○×クイズで前時の振り返りを行う

前時の学習内容を、ロイロノート・スクールで作成した○×クイズで振り返る。ごく簡単な問題にテンポよく取り組むことで、学習内容を想起させ、授業への導入をスムーズに進めることができた。



2. 教師の模範音読を聴く

事前に準備しておいた「敦盛の最期」の教師の音読を全体で聴きながら、読み方を確認する。この時、一人ひとりのロイロノート・スクールにも同じ音読データを配布しておく。

録音データには、生徒が音読を聴きながら自然と目に入るように、音読する文章と共に、音読するときに注意するポイント（歴史的仮名遣い、係り結びなど）や、補足説明が書いてある。

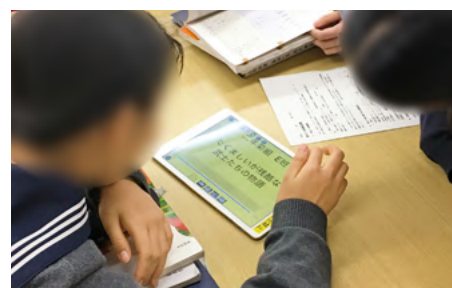


3. 場面のイメージを表すタイトルを考える

各グループで、この場面をどのように表現したいかイメージをまとめ、それをタイトルにする。

例えば「〇〇い物語」「〇〇な物語」のように形容詞、形容動詞で表現するように勧めた。（例「力強くたくましい物語」など。）

グループによっては、音読で表現してからタイトルを考えたとこもある。



4. 音読練習をする

2人に1台のタブレットに教師の録音データを配信しておき、それを何度も聞きながら、音読練習をする。間違いやすいところなどにメモを書き込むなど、工夫する生徒もいた。



5. グループで録音する

グループ内で分担して音読したものを、ロイロノート・スクールを用いて録音する。『平家物語』の文体は難しいので、なかなかすらすらと読むことは難しいが、音読に失敗したら撮り直しができるため、何度もチャレンジすることで古文の文体に読み慣れていった。また、タブレットのマイクに近づいて録音することがコツである。



6. グループで録音した音読を聴いて振り返る

自分たちのグループで録音した音読を聴き合って確認する。

自分がイメージした通りに他の人にも伝えられているのか、音読を聴いて振り返り、うまくいかなかったと感じた場合は再度録音にチャレンジした。次回の授業では他のグループの録音をお互いに聴き合い、他のグループの音読からも学んでいき、作品の読みをさらに深めていくことができた。



鎌倉幕府滅亡の原因を考えよう

佐伯市立直川中学校

立石 俊夫教諭

ロイロノート・スクールとアクティブラーニングで、
「学びの自立」のための授業展開を目指します。

実践の概要

本時の学習課題である「鎌倉幕府の滅亡原因」について、エキスパート班に分かれて資料を読み込みます。エキスパート班から1人ずつ組み合わせさせてジグソー班を作ります。それぞれ、資料の内容をジグソー班のメンバーに説明し、調べてきたことを話し合っ

て議論します。

その後、それぞれのエキスパート班に戻ってジグソー班での話し合いを交換し合います。

そして、生徒が選択した思考ツールを用いて、学習課題を多角的、多面的にまとめました。

最後に個人で文章化した後、その要約を書いて、リレー発表を行いました。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・暗記中心と思われがちな中学歴史分野の学習において、協調学習をベースとし、思考ツールを活用したアクティブラーニングに取り組ませることで、「学びの自立」を目指した授業を行いました。特に有効だったのがICT機器の利活用です。ロイロノート・スクールによるインタラクティブな学習形態は、このような学習には必要不可欠なアイテムです。
- ・多くの活動（ペア学習→グループ学習2編成→発表→評価）を1時間に組み込むことは、従来の歴史学習や紙でのワークシート配布や回収そして発表という形の授業展開では時間的に不可能でした。しかし、ロイロノート・スクールのようなインタラクティブな学習が直感的にできるアプリを使用することで、より「密度の濃い」授業内容が可能となりました。
- ・タブレット端末とロイロノート・スクールの組み合わせは、生徒にとっても教師にとっても非常に扱いやすく、ベストな授業を作りだすことができるアイテムだと思います。

実践の目標

歴史事象について自然と友達と協調しながら、多角的、多面的に考察できるようになる。

実践の場面

1. 本時の授業前に、ペアで帯活動を行う

毎時間の最初に帯活動として、事典調べをしたり、ロイロノート・スクールなどのアプリを使用したりする、本時の授業とは別の学習をペアで行う。



2. ジグソー法を用いた協調学習を行う

ジグソー法の流れとして、まずエキスパート活動を行う。

本時の学習課題である「鎌倉幕府の滅亡原因」について、複数の異なる視点で書かれている資料をエキスパート班に分かれてそれぞれ読み込む。その班から1人ずつ組み合わさって新しいグループとなるジグソー班に分かれる。

それぞれが担当した資料の内容をジグソー班のメンバーに説明し、資料について調べてきたことを話し合っ、議論する。

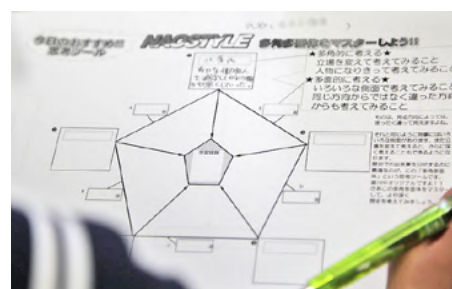
このジグソー法を通して、グループで協調的な学習をしながら学習課題を解決していく。



3. 思考ツールを活用して学習課題の答えをまとめる

ジグソー班で話し合った後、それぞれのエキスパート班に戻ってそれぞれのジグソー班での話し合いを交換し合う。

そして、10の思考ツールから自分たちで選択したツールを用いて、学習課題である滅亡の原因を多角的、多面的にまとめていく。



4. 学習課題の答えを文章化し、要約を送信する

思考ツールで考察後、滅亡の原因を総合的に考え、それを個人で文章化する。その内容について要約を作成し、ロイロノート・スクールで教師に送信する。要約させることで、全文を書くよりも短い時間で書くことができ、さらに文章をまとめる表現力も育成できる。



5. リレー発表を行う

教師に送られてきた要約を、ロイロノート・スクールで一覧表示する。最初の発表者が発表後に、次に聞いてみたい要約を書いた発表者を順次指名していくリレー発表を行う。



6. 本時のまとめをする

教師による最終プレゼンで授業評価を行い、本時のまとめとする。



北海道地方

愛光中学・高等学校
松下 直樹教諭

『銀の匙』に描かれる「離農」について、さまざまな資料から重層的に考察し、シンキングツールで考えをつくり、論じます。

実践の概要

農業高校が舞台の学園漫画『銀の匙』（荒川弘 作）を題材に、北海道地方の地域的な特色を踏まえ、「離農」についての考えをグループで考察しました。

本作品は、北海道地方のエッセンスが詰まったとても素敵な地理の学習材です。物語の中で、主人公の同級生の実家が、離農を余儀なくされてしまいます。離農の要因はどこ／何にあるのか、という学習問題を提示しました。北海道地方の零細・酪農家が離農する要因について、物語から背景や情報を読み込み、統計資料の分析結果を加味しながら、シンキングツールを用いてグループで考えをつくり出しました。最終的には、離農の要因を自分たちの言葉で論じました。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・膨大な量の資料であっても、資料配布を速やかに行えるため、時間短縮につながります。
- ・「回答共有」や「送る」といった機能により、授業時間の内外での協働的な学びが実現できます。
- ・個々人の学びを振り返ることがスムーズに、そして楽しく行えているように感じます。
- ・シンキングツールを活用することで、教科を超えてより汎用的に、思考のプロセスを学ぶことができます。

実践の目標

- ・『銀の匙』および統計資料の分析結果をもとに、北海道地方の零細・酪農家の離農要因について、重層的に考察することができる。
- ・多様な考えの中から、考えをつくり出し、各々の言葉で論じることができる。

実践の場面

1. 作品から要因を探る（個人思考）

ロイロノート・スクールを使い、『銀の匙』の2巻・3巻・8巻（抜粋）を配布する。生徒はそれらを読みながら、物語中に描かれる「離農」について触れる。物語を読み込みながら、離農の要因について、各々のウェビングマップを作成する。



2. 統計資料を分析する（個人思考）

ロイロノート・スクールを使い、作品の内容を補い、情報を裏づける統計データを配布する。生徒は統計データの分析を通じて、先に作成したウェビングマップに加筆修正しながら、重層的に要因を考察する。マップ上に出そろった要因を各自で付箋に書き出しておくこととした。



3. 要因を分類する（グループ学習）

4人1組のグループで、同心円チャートを活用して、離農の要因を分類する。同心円はそれぞれ地域的枠組みを意識し、中心の輪に「駒場農場」、中の輪に「国内の状況」、外の輪に「国外との関係」を配列した。生徒たちは、場面2で準備した付箋を使いながら議論を進め、要因のグルーピングを行う。



4. 要因の関連を見出す（グループ学習）

グループごとに議論しながら、場面3でグルーピングした要因同士の間関連を見出し、それらを線で結んでいく。
この過程を経ることで、離農の要因をめぐる考察内容の可視化を促すことができる。



5. 文章で表現する（個人思考）

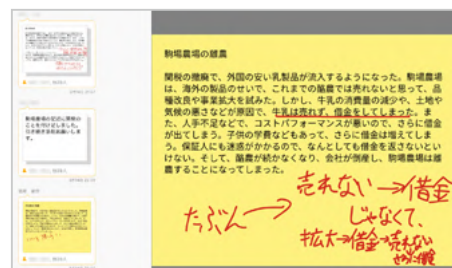
離農の要因を考えるに当たり、「酪農家が抱える諸課題」および「酪農を取り巻く状況」に着目する。前者を内的要因、後者を外的要因と呼ぶこととして、場面4で作成した同心円チャートを参照しながら、駒場農場が離農した要因を個人で論述する。グループごとに色分けしたテキストをロイロノート・スクールの「提出箱」に提出する。提出されたテキストはその場で「回答共有」し、いずれにもアクセスできるようにする。



6. 解答の完成を目ざす

授業後、各グループから1人指名して解答を添削（教師からのコメント）する。これを参考にし、生徒同士で相互添削や議論を繰り返しながら、解答の完成を目ざした。

本校では、普段からロイロノート・スクールの「生徒間通信」を解除しているため、学校以外の場所でも主体的・協同的な学びが展開されている。



曲にふさわしい表現を工夫して歌おう

ロイロノート・スクールで録画し、すぐに自己の演奏を振り返ることで、意欲や表現力が高まる授業を実現します。

実践の概要

地域の老人ホームで慰問演奏をするため、曲にふさわしい表現工夫を考えていきました。

まず、表現工夫したいことをワークシートに記入します。自分の考えた表現工夫で演奏してタブレットで録画します。録画したらすぐに再生し、改善点を考え、試行錯誤しながら3回録画します。グループを作り、グループ内で互いに自分の演奏をロイロノート・スクールで送信します。送信されてきた演奏を聴き、付箋にループリックに基づいた評価とその根拠を記入。また、良いところやアドバイスも記入し、次の演奏の参考にできるようにしました。お互いに書いた付箋を交換し、自分の演奏がどのように伝わったか確認します。アドバイスをもとに再度録画して再生し、より良い演奏になっているか確認します。

ループリックに基づいて自己評価をし、ワークシートに記入します。ワークシートを撮影し、ワークシートの画像と、自分の納得のいった演奏をつなげて、教師に提出します。教師は、提出されたワークシートと演奏を評価し、毎時間使用している生徒の評価表にアドバイスを記入し、フィードバックをしました。

ロイロノート・スクール導入のメリット

- ・自分の演奏を録画し、モニターさせることで、適切な自己評価ができるようになりました。
また、自分の演奏を高める意欲が増し、何度も試行錯誤を繰り返すことで技能が向上しました。
- ・相互評価もお互いの演奏を送り合うことで、個別にきちんと聴き、適正な評価やアドバイスができるようになりました。
- ・授業時間内に行っていた個別の実技テストが、短時間にできるようになりました。そのため、実技テストが実施しやすくなり、何度も聴き直せるので、評価も丁寧にできるようになりました。生徒にとっても、録画し直せるので自分の納得する演奏で評価が受けられるようになったように感じます。
- ・ワークシートもカメラで撮影したものを提出できるので、返却を気にせずじっくりとチェックすることができました。また、演奏とワークシートの画像をつなげて提出させることで、時間のロスがなく、両方を関連付けてチェックすることができました。

実践の目標

- ・表現したい思いや意図を持ち、それが伝わっているか客観的に自己評価しながら、歌唱する技能を身につけることができる。
- ・友達の演奏を聴くことで、表現の多様性を感じ取り、自分の表現に生かすことができるようにする。

実践の場面

1. 本時の課題を把握する

教師用のロイロノート・スクールに入れておいたワークシートを電子黒板で提示し、全体で課題を確認する。

あらかじめ教師用タブレットに入れておいた資料を提示することで、板書時間の短縮ができ、生徒も自分のワークシートに確実に記入できた。



2. 表現工夫したいことをワークシートに記入する

既習事項をもとに、自分の思いや意図を伝えるためには、どんな工夫をして歌唱すればよいか考えさせる。既習事項はワークシートと電子黒板に提示しておき、一斉に内容を確認する。

また、本時のループリック評価について相談し、決定したものを電子黒板上のワークシートに記入する。生徒も自分のワークシートに記入する。



3. 自分の演奏を録画・再生する

自分の考えた表現工夫をして、タブレットで録画する。

録画したらすぐに再生し、自分の工夫が伝わっているかモニターして改善点を考える。試行錯誤しながら3回録画する。

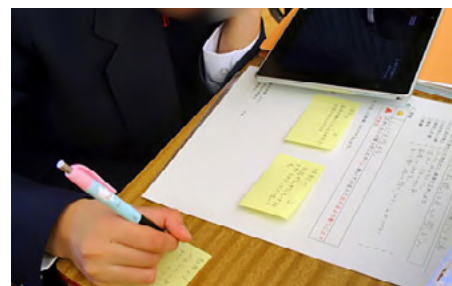
3回ともOKボタンを押して演奏を保存する。



4. 友達と相互評価をする

グループを作り、同グループの友達に自分の演奏をロイロノート・スクールで送信する。送信されてきた演奏を聴き、付箋にループリックに基づいた評価とその根拠を記入させる。

また、良いところやアドバイスも記入し、次の演奏の参考にできるようにする。活動の途中で指示や注意を与えたい時は、ロック機能を使ってロイロノート・スクールの操作ができないようにし、きちんと話が聞けるようにした。



5. 再度、自分の演奏を録画・再生する

お互いに書いた付箋を交換させ、自分の演奏がどのように伝わったか確認する。アドバイスをもとに再度録画し、より良い演奏になっているか確認する。3回録画して、どれも保存する。



6. 演奏とワークシートをつなげて提出する

ループリックにもとづいて自己評価をし、ワークシートに記入する。ワークシートをロイロノート・スクールで撮影してワークシートの画像と、自分の納得のいった演奏をつなげて教師に提出する。教師は提出されたワークシートと演奏を評価し、毎時間使用している生徒の評価表にアドバイスを記入してフィードバックをする。





【インタビュー】鎌倉学園中学校・高等学校

朝の職員ミーティング時間を短縮！

慌ただしい朝のホームルーム前に数分の時間を作ることができた。

朝の職員ミーティングにロイロノート・スクールを導入することで、
時間を効率的に使うことができました。
シンプルな操作のため、全教職員がタブレットを使い始めました。
タブレット導入の一步目としてオススメです！

現状の問題

朝の職員ミーティング時、伝達事項をそれぞれが挙手して発言していた。
多い時では10名近い教員が発言するため、生徒の待つホームルームに遅れてしまうこともあった。
朝の職員ミーティングの方法に課題を感じていた。

導入のメリット

- ・シンプルな操作のため全教職員がタブレットに慣れ、全員が使い始めた。
- ・いつでも伝達事項を確認できるので、伝達ミスや漏れがなくなった。
- ・メッセージ動画や落とし物写真など、動画や写真で明確に伝えられる。
- ・朝に学年担任同士で話し合う時間を取れるようになった。

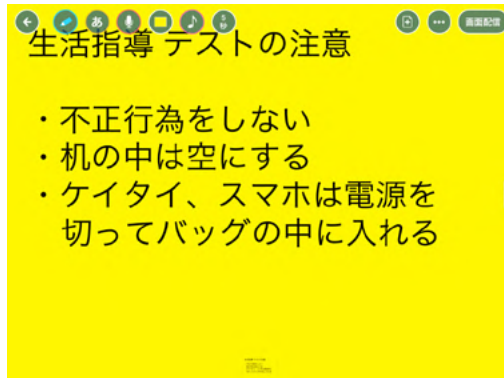
1. 【事前準備】ロイロノート・スクールで、伝達事項を作成する

テキストカード・カメラカードなどで伝達事項を作成し、資料箱の中にある、その日の日付フォルダへ入れておく。

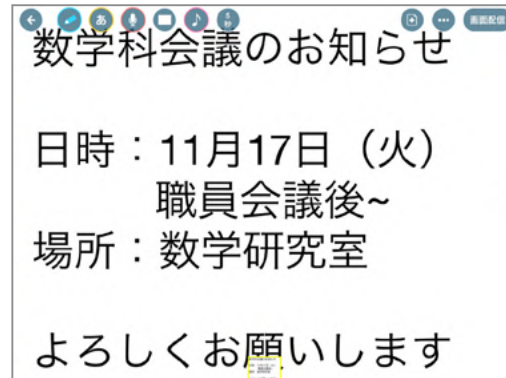
あらかじめ、資料箱には日付のフォルダを作成しておく。

また、パソコンからPDFファイルを資料箱にアップロードする場合もある。

生徒へ伝達する内容は「黄色のカード」、職員間で伝達する内容は「白色のカード」で作成する。



生徒へ伝達する「黄色のカード」



職員間で伝達する「白色のカード」

2. 【8時15分～】朝の職員ミーティング

本日の日付のノートを作成して、資料箱を確認し、フォルダ内の伝達事項のカードを自分のノートに持ってくる。白いカードと黄色のカードをそれぞれ分類してつなげる。追加したい情報がある場合、新しくテキストカードを追加したり、手描きツールで加える。

伝達事項がある教員は挙手をして「ロイロノート・スクールに上げましたのでご覧下さい。」など補足説明をする。



今日の日付のフォルダからカードを取り出す



職員ミーティングの様子

3. 学年担任同士でのミーティング

職員ミーティング終了後、学年担任同士でミーティングをする。

生徒の情報（状況）、昨日の出来事や、担任同士で共有したいことなどを確認してから、生徒の待つホームルームへと向かう。

4. 【8時25分～】ホームルーム

職員ミーティングの時に、伝えたい順番に並べ替えた黄色のカードの内容を伝達する。

導入校 ー多くの学校に広がっています！ー

私立小学校（小・中一貫校）

- 【福島県】
 - ・会津若松ザベリオ学園小学校・中学校・高等学校
 - ・郡山ザベリオ学園小学校・中学校
- 【群馬県】
 - ・共愛学園小学校
- 【埼玉県】
 - ・開智小学校
- 【千葉県】
 - ・国府台女子学院小学部
 - ・日出学園小学校
- 【東京都】
 - ・慶應義塾幼稚舎
 - ・自由学園 初等部（小学校）
 - ・成城学園初等学校
 - ・宝仙学園小学校
 - ・目黒星美学園小学校
 - ・聖ドミニコ学園小学校
 - ・日本女子大学附属豊明小学校
 - ・聖徳学園小学校
- ・菅生学園初等学校
- ・立教小学校
- ・成蹊小学校
- ・星美学園小学校
- ・玉川学園 [幼小中高]
- ・東洋英和女学院小学部
- 【神奈川県】
 - ・慶應義塾横浜初等部
 - ・相模女子大学小学部
 - ・横浜雙葉小学校
 - ・桐光学園小学校
 - ・森村学園初等部
 - ・清泉小学校
 - ・洗足学園小学校
 - ・カリタス小学校
 - ・湘南学園小学校
- 【山梨県】
 - ・駿台甲府小学校
- 【長野県】
 - ・長野日本大学小学校
- 【静岡県】
 - ・東海大学付属静岡翔洋小学校
 - ・加藤学園暁秀初等学校
 - ・静岡サレジオ小学校
- 【三重県】
 - ・津田学園小学校・中学校・高等学校
- 【京都府】
 - ・立命館小学校
 - ・同志社国際学院初等部
 - ・同志社小学校
 - ・ノートルダム学院小学校
 - ・光華小学校
 - ・洛南高等学校附属小学校
 - ・聖母女学院
- 【大阪府】
 - ・関西大学初等部
 - ・関西創価小学校
 - ・大阪信愛女学院小学校
 - ・はつしば学園小学校
- 【兵庫県】
 - ・愛徳学園小学校
 - ・甲南小学校
 - ・雲雀丘学園小学校
- 【奈良県】
 - ・近畿大学附属小学校・幼稚園
 - ・奈良育英小学校
- 【岡山県】
 - ・ノートルダム清心女子大学附属小学校
- 【広島県】
 - ・なぎさ公園小学校
- 【高知県】
 - ・高知小学校
- 【福岡県】
 - ・敬愛小学校
 - ・福岡海星女子学院附属小学校
 - ・明治学園小学校
- 【長崎県】
 - ・九州文化学園小学校・中学校
- 【鹿児島県】
 - ・池田小学校

私立中学校（中・高一貫校）

- 【北海道】
 - ・藤女子中学校・高等学校
 - ・札幌聖心女子学院中学校・高等学校
 - ・札幌光星学園中学校・高等学校
 - ・札幌日本大学中学校・高等学校
 - ・立命館慶祥中学校・高等学校
 - 【福島県】
 - ・石川高等学校・石川義塾中学校
 - 【茨城県】
 - ・東洋大学附属牛久中学校・高等学校
 - ・茨城キリスト教学園中学校・高等学校
 - ・江戸川学園取手中・高等学校
 - ・常総学院中学校・高等学校
 - ・清真学園高等学校・中学校
 - 【栃木県】
 - ・宇都宮短期大学附属中学校・高等学校
 - 【埼玉県】
 - ・大妻嵐山中学校・高等学校
 - ・開智未来中学・高等学校
 - 【千葉県】
 - ・聖徳大学附属女子中学校・高等学校
 - ・千葉明德中学校・高等学校
 - 【東京都】
 - ・鷗友学園女子中学高等学校
 - ・佼成学園女子中学高等学校
 - ・芝浦工業大学附属中学高等学校
 - ・東京家政大学附属女子中学校・高等学校
 - ・実践女子学園中学校・高等学校
 - ・広尾学園 中学校 高等学校
 - ・佼成学園中学校・高等学校
 - ・城北学園 城北中学校・高等学校
 - ・聖心女子学院初等科・中等科・高等科
 - ・トキワ松学園中学校高等学校
 - ・武蔵野大学中学校・高等学校
 - ・星美学園中学高等学校
 - ・大妻多摩中学高等学校
 - ・成立学園中学・高等学校
 - ・三田国際学園中学校・高等学校
 - ・東京都市大学付属中学校・高等学校
 - ・立教池袋中学校・高等学校
 - ・宝仙学園中学校・高等学校
 - ・大妻中野中学校・高等学校
 - ・工学院大学付属中学校・高等学校
 - ・文化学園大学杉並中学・高等学校
 - ・田園調布学園 中等部・高等部
 - ・香蘭女学校中等科・高等科
 - ・桜丘中学・高等学校
 - ・城西大学附属 城西中学・高等学校
 - ・目黒学院中学校・高等学校
 - ・東海大学菅生高等学校・中等部
 - ・麴町学園女子中学校高等学校
 - ・東京女子学園中学校・高等学校
 - ・早稲田大学 高等学院 中学部
 - ・淑徳中学校・高等学校
 - ・十文字中学・高等学校
 - ・東京都市大学 等々力中学校・高等学校
 - ・白百合学園中学高等学校
 - ・海城中学高等学校
 - ・獨協中学校・獨協高等学校
 - ・聖徳学園中学・高等学校
 - ・三輪田学園中学校・高等学校
 - ・八王子高等学校・中学校
 - ・東星学園中学校・高等学校
 - ・日本大学第三高等学校・中学校
 - ・日本大学豊山高等学校・中学校
 - ・日本大学豊山女子中学校・高等学校
 - ・上野学園中学校・高等学校
 - ・富士見丘中学高等学校
 - ・八王子実践中学校・高等学校
 - ・慶應義塾中等部
 - ・東洋英和女学院 中学部・高等部
 - ・江戸川女子中学校・高等学校
 - ・明治大学付属中野中学・高等学校
 - ・八雲学園中学校高等学校
 - ・文京学院大学女子中学校 高等学校
 - ・小野学園女子中学・高等学校
 - ・女子学院中学校・高等学校
 - ・頌栄女子学院中学校・高等学校
 - ・東京農業大学第一高等学校中等部
 - ・日本体育大学桜華中学校・高等学校
 - ・大妻中学高等学校
 - ・駒沢学園女子中学校・高等学校
 - ・駒込中学校・高等学校
 - ・共立女子中学高等学校
 - ・富士見中学高等学校
 - ・桐朋女子中学校・高等学校
- 【神奈川県】
 - ・鎌倉女学院中学校・高等学校
 - ・慶應義塾普通部
 - ・鶴見大学附属中学校・高等学校
 - ・横浜翠陵中学・高等学校
 - ・神奈川大学附属中・高等学校
 - ・横浜隼人中学校・高等学校
 - ・栄光学園中学高等学校
 - ・横浜創英中学・高等学校
 - ・相洋高等学校
 - ・北鎌倉女子学園中学校・高等学校
 - ・学校法人桐蔭学園
 - ・横浜雙葉中学高等学校
 - ・逗子開成中学校・高等学校
 - ・洗足学園中学高等学校
 - ・函嶺白百合学園中学高等学校
 - ・日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校
 - ・日本女子大学附属中学校・高等学校
 - ・日本大学高等学校・中学校
- 【石川県】
 - ・星稜中学校・高等学校
- 【福井県】
 - ・敦賀気比高等学校・付属中学校
 - ・北陸中学校・高等学校
- 【山梨県】
 - ・駿台甲府中学校
- 【長野県】
 - ・佐久長聖中学・高等学校
 - ・長野日本大学中学・高等学校
- 【岐阜県】
 - ・岐阜聖徳学園高等学校

- ・多治見西高等学校附属中学校

【静岡県】

- ・静岡英和女学院中学校・高等学校
- ・不二聖心女子学院中学校・高等学校
- ・静岡大成中学校・高等学校
- ・浜松開誠館中学校・高等学校
- ・静岡聖光学院中学校・高等学校
- ・日本大学三島高等学校・中学校
- ・星陵中学校・星陵高等学校
- ・聖隷クリストファー中・高等学校
- ・浜松日体中学校・高等学校
- ・静岡雙葉中学校・高等学校

【愛知県】

- ・中部大学春日丘中学校・高等学校
- ・南山高等・中学校女子部
- ・桜丘中学校・高等学校

【三重県】

- ・セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校

【滋賀県】

- ・立命館守山中学校・高等学校
- ・光泉中学・高等学校
- ・滋賀学園中学・高等学校

【京都府】

- ・同志社中学校・高等学校
- ・京都精華学園中学校・高等学校
- ・花園中学高等学校

【大阪府】

- ・近畿大学附属高等学校・中学校
- ・追手門学院中学校・高等学校
- ・四天王寺中学校・高等学校
- ・東海大学付属大阪仰星高等学校・中等部
- ・常翔学園中学校・高等学校
- ・関西大学中等部・高等部
- ・関西大学第一中学校・高等学校
- ・関西大学北陽中学校・高等学校
- ・金蘭会高等学校・中学校
- ・同志社香里中学校・高等学校

- ・追手門学院大手前中・高等学校
- ・大阪芸芸高等学校附属中学校
- ・四天王寺学園中学校・高等学校
- ・金蘭千里中学校・高等学校
- ・香里ヌヴェール学院中学校・高等学校
- ・大阪芸芸中等教育学校
- ・樟蔭中学校・高等学校
- ・大阪桐蔭中学校高等学校
- ・高槻中学校・高槻高等学校

【兵庫県】

- ・愛徳学園中学校・高等学校
- ・賢明女子学院中学校・高等学校
- ・園田学園中学校・高等学校
- ・親和中学校・親和女子高等学校
- ・松蔭中学校・高等学校
- ・東洋大学附属姫路中学校・高等学校
- ・武庫川女子大学附属中学校・高等学校
- ・関西学院中学部
- ・神戸山手女子中学校・高等学校
- ・雲雀丘学園中学校・高等学校
- ・仁川学院中学・高等学校
- ・神戸学院大学附属中学校・高等学校

【奈良県】

- ・奈良学園小学校
- ・奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校

【鳥取県】

- ・米子北斗中学校・高等学校

【岡山県】

- ・清心中学校・清心女子高等学校
- ・就実中学校・就実高等学校

【広島県】

- ・広島城北中・高等学校
- ・盈進中学高等学校
- ・広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校
- ・広島国際学院

【山口県】

- ・梅光学院中学校・高等学校

- ・高水高等学校・付属中学校
- ・萩光塩学院中学校・高等学校

【香川県】

- ・大手前高松中学・高等学校

【愛媛県】

- ・愛光中学・高等学校
- ・帝京富士中学・帝京富士高等学校

【高知県】

- ・清和女子中等高等学校

【福岡県】

- ・博多高等学校
- ・筑陽学園中学・高等学校
- ・中村学園三陽中学校・高等学校
- ・東福岡自強館中学校・東福岡高等学校
- ・明光学園中学校・高等学校
- ・博多女子中学校・高等学校
- ・東筑紫学園
- ・福岡雙葉中学校・高等学校
- ・大牟田中学校
- ・折尾愛真学園

【佐賀県】

- ・早稲田佐賀中学校・高等学校
- ・龍谷中学校・高等学校

【長崎県】

- ・純心中学校・純心女子高等学校
- ・長崎日本大学中学・高等学校
- ・海星高等学校・海星中学校

【熊本県】

- ・九州学院中学校・高等学校
- ・熊本信愛女学院中学高等学校

【宮崎県】

- ・鵬翔中学校・高等学校

【鹿児島県】

- ・志学館 中等部・高等部

【沖縄県】

- ・興南中学校・興南高等学校
- ・沖縄尚学高等学校・附属中学校

私立高等学校

【北海道】

- ・小樽双葉高等学校
- ・旭川明成高等学校
- ・東海大学付属札幌高等学校
- ・白樺学園高等学校
- ・札幌第一高等学校
- ・札幌創成高等学校
- ・札幌龍谷学園高等学校
- ・札幌静修高等学校
- ・北海道科学大学高等学校

【青森県】

- ・東奥義塾高等学校

【岩手県】

- ・一関修紅高等学校
- ・花巻東高等学校
- ・盛岡中央高等学校

【福島県】

- ・日本大学東北高等学校

【茨城県】

- ・水戸啓明高等学校
- ・土浦日本大学高等学校

【埼玉県】

- ・正智深谷高等学校

【千葉県】

- ・植草学園大学附属高等学校
- ・東京学館高等学校
- ・茂原北陵高等学校
- ・千葉聖心高等学校
- ・日本体育大学柏高等学校

【東京都】

- ・駒場学園高等学校
- ・東洋女子高等学校
- ・東洋高等学校
- ・日本体育大学荏原高等学校
- ・日本大学鶴ヶ丘高等学校
- ・日本女子体育大学附属二階堂高等学校
- ・日本大学櫻丘高等学校
- ・科学技術学園高等学校
- ・大東文化大学第一高等学校
- ・村田女子高等学校

【神奈川県】

- ・横浜清風高等学校
- ・藤沢翔陵高等学校
- ・鶴沼高等学校

【富山県】

- ・高岡向陵高等学校

【石川県】

- ・金沢高等学校
- ・小松大谷高等学校

【山梨県】

- ・東海大学付属甲府高等学校

【岐阜県】

- ・清凌高等学校

【静岡県】

- ・清水国際高等学校
- ・加藤学園高等学校

【愛知県】

- ・安城学園高等学校
- ・中部大学第一高等学校
- ・大同大学大同高等学校
- ・桜花学園高等学校
- ・至学館高等学校
- ・中京大学附属中京高等学校

【大阪府】

- ・大商学園高等学校
- ・堺リベラル中学校・高等学校

【兵庫県】

- ・関西学院高等部
- ・神戸弘陵学園高等学校

【鳥取県】

- ・鳥取城北高等学校
- ・米子松蔭高等学校

【岡山県】

- ・岡山龍谷高等学校

【愛媛県】

- ・聖カタリナ学園高等学校
- ・済美高等学校

【福岡県】

- ・立花高等学校
- ・筑紫台高等学校
- ・福岡女子商業高等学校
- ・自由ヶ丘高等学校
- ・東海大学付属福岡高等学校
- ・福岡海星女子学院高等学校
- ・福岡大学附属若葉高等学校

【長崎県】

- ・長崎玉成高等学校

【大分県】

- ・大分国際情報高等学校
- ・昭和学園高等学校

専門学校

- ・ホスピタリティ ツーリズム専門学校
- ・東京プライダル専門学校
- ・学校法人華学園 華服飾専門学校
- ・東京福祉専門学校

- ・学校法人山口学園 ECC国際外語専門学校
- ・学校法人山口学園 ECCアーティスト美容専門学校
- ・行岡医学技術専門学校
- ・朝日医療大学校

- ・下関看護リハビリテーション学校
- ・専門学校 健祥会学園

大学

- ・青森明の星短期大学
- ・盛岡大学
- ・立正大学地球環境科学部
- ・女子栄養大学
- ・神田外語大学
- ・千葉工業大学
- ・上越教育大学
- ・新潟青陵大学
- ・石川県立大学教養教育センター
- ・中京大学
- ・愛知教育大学
- ・名古屋短期大学
- ・京都看護大学
- ・京都光華女子大学 健康科学部看護学科
- ・京都光華女子大学短期大学部
- ・ライフデザイン学科
- ・大阪府立大学
- ・大阪大学
- ・大阪国際大学短期大学部
- ・大阪医科大学
- ・兵庫教育大学
- ・天理大学
- ・和歌山大学教職大学院
- ・愛媛大学
- ・大分県立芸術文化短期大学
- ・沖縄大学

国公立小学校・中学校

- 【北海道】
 - ・旭川市教育委員会
 - ・釧路市教育委員会
 - ・北見市教育委員会
 - ・岩見沢市教育委員会
 - ・名寄市教育委員会
 - ・根室市教育委員会
 - ・登別市教育委員会
 - ・釧路町教育委員会
 - ・厚沢部町教育委員会
 - ・仁木町教育委員会
 - ・東神楽町教育委員会
 - ・美瑛町教育委員会
 - ・東川町教育委員会
 - ・新篠津村教育委員会
- 【青森県】
 - ・十和田市教育委員会
 - ・弘前市教育委員会
 - ・三沢市教育委員会
 - ・中泊町教育委員会
 - ・おいらせ町教育委員会
 - ・六戸町教育委員会
 - ・東北町教育委員会
 - ・横浜町教育委員会
 - ・三戸町教育委員会
 - ・野辺地町教育委員会
 - ・藤崎町教育委員会
 - ・田舎館村教育委員会
 - ・六ヶ所村（千歳中学校）
- 【岩手県】
 - ・一関市教育委員会
 - ・久慈市教育委員会
 - ・陸前高田市教育委員会
 - ・二戸市教育委員会
 - ・八幡平市教育委員会
 - ・滝沢市教育委員会
 - ・花巻市教育委員会
 - ・遠野市教育委員会
 - ・紫波町教育委員会
 - ・平泉町教育委員会
- 【宮城県】
 - ・仙台市教育委員会
 - ・気仙沼市教育委員会
 - ・岩沼市教育委員会
 - ・富谷市教育委員会
 - ・南三陸町教育委員会
 - ・亶理郡山元町教育委員会
 - ・七ヶ宿町教育委員会
- 【秋田県】
 - ・湯沢市教育委員会
 - ・潟上市教育委員会
 - ・井川町教育委員会
- 【山形県】
 - ・天童市教育委員会
 - ・飯豊町教育委員会
- 【福島県】
 - ・田村市教育委員会
 - ・南相馬市教育委員会
 - ・桑折町教育委員会
- ・郡山市教育委員会
- 【茨城県】
 - ・神栖市教育委員会
 - ・古河市教育委員会
 - ・笠間市教育委員会
 - ・行方市教育委員会
 - ・鉾田市教育委員会
 - ・桜川市教育委員会
 - ・潮来市教育委員会
 - ・下妻市教育委員会
- 【栃木県】
 - ・足利市教育委員会
 - ・佐野市教育委員会
 - ・日光市教育委員会
 - ・さくら市教育委員会
 - ・塩谷町教育委員会
- 【群馬県】
 - ・高崎市教育委員会
 - ・沼田市教育委員会
 - ・館林市教育委員会
 - ・下仁田町教育委員会
 - ・邑楽町教育委員会
 - ・南牧村教育委員会
 - ・昭和村教育委員会
- 【埼玉県】
 - ・戸田市教育委員会
 - ・鶴ヶ島市教育委員会
 - ・吉川市教育委員会
 - ・飯能市教育委員会
 - ・松伏町教育委員会
- 【千葉県】
 - ・八千代市教育委員会
 - ・印西市教育委員会
 - ・船橋市教育委員会
- 【東京都】
 - ・八王子市教育委員会
 - ・多摩市教育委員会
 - ・杉並区教育委員会
 - ・北区教育委員会
 - ・墨田区教育委員会
 - ・品川区教育委員会
 - ・世田谷区教育委員会
 - ・八丈町教育委員会
- 【神奈川県】
 - ・神奈川県教育委員会
 - ・藤沢市教育委員会
 - ・横浜市教育委員会
 - ・茅ヶ崎市教育委員会
 - ・秦野市教育委員会
 - ・葉山町教育委員会
 - ・大和市教育委員会教育研究所
- 【新潟県】
 - ・新潟市教育委員会
 - ・五泉市教育委員会
 - ・阿賀野市教育委員会
 - ・聖籠町教育委員会
 - ・弥彦村教育委員会
- 【富山県】
 - ・立山町教育委員会
- ・舟橋村教育委員会
- 【福井県】
 - ・福井県教育委員会
 - ・勝山市教育委員会
 - ・池田町教育委員会
- 【山梨県】
 - ・韭崎市教育委員会
- 【長野県】
 - ・茅野市教育委員会
 - ・塩尻市教育委員会
 - ・筑北村教育委員会
 - ・喬木村教育委員会
 - ・栄村教育委員会
- 【岐阜県】
 - ・多治見市教育委員会
 - ・羽島市教育委員会
 - ・恵那市教育委員会
 - ・郡上市教育委員会
 - ・関市教育委員会
 - ・山県市教育委員会
 - ・八百津町教育委員会
 - ・東白川村教育委員会
- 【静岡県】
 - ・富士市教育委員会
 - ・磐田市教育委員会
 - ・掛川市教育委員会
 - ・御殿場市教育委員会
 - ・袋井市教育委員会
 - ・熱海市教育委員会
 - ・伊豆市教育委員会
 - ・森町教育委員会
 - ・函南町教育委員会
 - ・長泉町教育委員会
- 【愛知県】
 - ・愛知県教育委員会
 - ・岡崎市教育委員会
 - ・高浜市教育委員会
 - ・半田市教育委員会
 - ・知立市教育委員会
 - ・愛西市教育委員会
 - ・清須市教育委員会
 - ・北名古屋市教育局委員会
 - ・あま市教育委員会
 - ・大府市教育委員会
 - ・小牧市教育委員会
 - ・岩倉市教育委員会
 - ・大治町教育委員会
 - ・武豊町教育委員会
 - ・東浦町教育委員会
 - ・蟹江町教育委員会
 - ・東栄町教育委員会
 - ・設楽町教育委員会
 - ・豊山町教育委員会
 - ・美浜町教育委員会
 - ・豊根村教育委員会
- 【三重県】
 - ・鳥羽市教育委員会
 - ・伊勢市教育委員会
 - ・松阪市教育委員会
- ・名張市教育委員会
- ・亀山市教育委員会
- ・桑名市教育委員会
- ・伊賀市教育委員会
- ・明和町教育委員会
- ・桑名郡木曾岬町教育委員会
- ・度会町教育委員会
- ・大台町教育委員会
- 【滋賀県】
 - ・高島市教育委員会
 - ・長浜市教育委員会
 - ・野洲市教育委員会
 - ・愛荘町教育委員会
- 【京都府】
 - ・京都市教育委員会
 - ・綾部市教育委員会
 - ・京田辺市教育委員会
 - ・京丹後市教育委員会
 - ・南丹市教育委員会
 - ・舞鶴市教育委員会
 - ・城陽市教育委員会
 - ・福知山市教育委員会
- 【大阪府】
 - ・大阪府教育委員会
 - ・池田市教育委員会
 - ・泉大津市教育委員会
 - ・八尾市教育委員会
 - ・寝屋川市教育委員会
 - ・和泉市教育委員会
 - ・藤井寺市教育委員会
 - ・交野市教育委員会
 - ・枚方市教育委員会
 - ・東大阪市教育委員会
 - ・松原市教育委員会
 - ・富田林市教育委員会
- 【兵庫県】
 - ・豊岡市教育委員会
 - ・淡路市教育委員会
 - ・加西市教育委員会
 - ・明石市教育委員会
 - ・尼崎市教育委員会
- 【奈良県】
 - ・奈良市教育委員会
 - ・大和郡山市教育委員会
 - ・川西町教育委員会
 - ・吉野町教育委員会
 - ・高取町教育委員会
- 【和歌山県】
 - ・紀の川市教育委員会
 - ・岩出市教育委員会
 - ・紀美野町教育委員会
 - ・高野町教育委員会
- 【鳥取県】
 - ・倉吉市教育委員会
- 【島根県】
 - ・松江市教育委員会
 - ・安来市教育委員会
 - ・海士町教育委員会
 - ・奥出雲町教育委員会
- 【岡山県】
 - ・玉野市教育委員会
 - ・備前市教育委員会
 - ・瀬戸内市教育委員会
 - ・浅口市教育委員会
- 【広島県】
 - ・三次市教育委員会
 - ・呉市教育委員会
 - ・福山市教育委員会
- 【山口県】
 - ・下関市教育委員会
 - ・美祢市教育委員会
 - ・宇部市教育委員会
 - ・防府市教育委員会
 - ・下松市教育委員会
 - ・平生町教育委員会
- 【徳島県】
 - ・上板町教育委員会
- 【香川県】
 - ・坂出市教育委員会
 - ・さぬき市教育委員会
 - ・善通寺市教育委員会
 - ・土庄町教育委員会
- 【愛媛県】
 - ・宇和島市教育委員会
 - ・八幡浜市教育委員会
 - ・新居浜市教育委員会
 - ・松山市教育委員会
 - ・久万高原町教育委員会
- 【高知県】
 - ・南国市教育委員会
 - ・香南市教育委員会
 - ・香美市教育委員会
 - ・越知町教育委員会
 - ・佐川町教育委員会
 - ・仁淀川町教育委員会
 - ・津野町教育委員会
 - ・梺原町教育委員会
- 【福岡県】
 - ・大野城市教育委員会
 - ・行橋市教育委員会
 - ・筑紫野市教育委員会
 - ・太宰府市教育委員会
 - ・うきは市教育委員会
 - ・朝倉市教育委員会
 - ・みやま市教育委員会
 - ・那珂川市教育委員会
 - ・田川市教育委員会
- 【長崎県】
 - ・長崎市教育委員会
 - ・新上五島町教育委員会
- 【熊本県】
 - ・熊本市教育委員会
 - ・阿蘇市教育委員会
 - ・南関町教育委員会
 - ・益城町教育委員会
 - ・長洲町教育委員会
 - ・山鹿市教育委員会
- 【大分県】

- ・大分市教育委員会
- ・中津市教育委員会
- ・日田市教育委員会
- ・佐伯市教育委員会
- ・臼杵市教育委員会
- ・津久見市教育委員会
- ・杵築市教育委員会
- ・宇佐市教育委員会
- ・豊後大野市教育委員会
- 【宮崎県】
- ・延岡市教育委員会
- ・宮崎市教育委員会
- ・日南市教育委員会
- 【鹿児島県】
- ・鹿児島県教育委員会
- ・鹿児島市教育委員会
- ・鹿屋市教育委員会
- ・枕崎市教育委員会
- ・阿久根市教育委員会
- ・指宿市教育委員会
- ・西之表市教育委員会
- ・垂水市教育委員会
- ・薩摩川内市教育委員会
- ・日置市教育委員会
- ・曾於市教育委員会
- ・南さつま市教育委員会
- ・志布志市教育委員会
- ・姶良市教育委員会
- ・肝付町教育委員会
- 【沖縄県】
- ・嘉手納町教育委員会
- ・国頭村教育委員会

公立高等学校

- ・北海道札幌厚別高等学校
- ・北海道札幌国際情報高等学校
- ・岩手県立大船渡高等学校
- ・山形県立山形東高等学校
- ・福島県立原町高等学校
- ・福島県立磐城高等学校
- ・茨城県立並木中等教育学校
- ・茨城県立古河中等教育学校
- ・茨城県立古河第二高等学校
- ・千葉県立佐倉高等学校
- ・千葉県立小金高等学校
- ・千葉県立松尾高等学校
- ・千葉県立長生高等学校
- ・東京都立西高等学校
- ・神奈川県立上鶴間高等学校
- ・神奈川県立厚木高等学校
- ・神奈川県立横須賀高等学校
- ・神奈川県立生田高等学校
- ・神奈川県立秦野高等学校
- ・石川県立小松明峰高等学校
- ・石川県立能登高等学校
- ・石川県立内灘高等学校
- ・福井県立鯖江高等学校
- ・静岡県立浜松南高等学校
- ・静岡県立浜松西高等学校
- ・静岡県立熱海高等学校
- ・愛知県立城北つばさ高等学校
- ・愛知県立豊田南高等学校
- ・京都府立北稜高等学校
- ・京都府立清明高等学校
- ・京都府立鴨沂高等学校
- ・兵庫県立明石城西高等学校
- ・兵庫県立西脇北高等学校
- ・岡山県立岡山東商業高等学校
- ・香川県立小豆島中央高等学校
- ・香川県立高瀬高等学校
- ・愛媛県立今治北高等学校
- ・愛媛県立伊予高等学校
- ・愛媛県立東温高等学校
- ・愛媛県立松山北高等学校
- ・愛媛県立松山南高等学校
- ・愛媛県立松山工業高等学校
- ・沖縄県立与勝緑が丘中学校・与勝高等学校

国立大学附属学校

- ・お茶の水女子大学附属中学校
- ・上越教育大学附属中学校
- ・京都教育大学附属桃山中学校
- ・京都教育大学附属桃山小学校
- ・京都教育大学附属高等学校
- ・和歌山大学教育学部附属中学校
- ・大阪教育大学附属天王寺小学校
- ・大阪教育大学附属平野小学校
- ・大阪教育大学附属池田小学校
- ・愛媛大学教育学部附属中学校
- ・新潟大学教育学部附属新潟中学校
- ・新潟大学教育学部附属新潟小学校
- ・東京大学教育学部附属中等教育学校
- ・東京学芸大学附属世田谷中学校
- ・東京学芸大学附属小金井小学校
- ・熊本大学教育学部附属小学校
- ・茨城大学教育学部附属小学校
- ・金沢大学附属中学校

高等専門学校

- ・神戸市立工業高等専門学校

インターナショナルスクール

- ・沖縄アミックスインターナショナル

日本語学校

- ・Grandeur Global Academy 沼津校

日本人学校

- ・上海日本人学校
- ・蘇州日本人学校
- ・香港日本人学校
- ・台北日本人学校 (台北市日僑学校)
- ・台中日本人学校
- ・アムステルダム日本人学校
- ・ソウル日本人学校
- ・リヤド日本人学校

海外

- 【中華人民共和国】
- ・上海实验学校
- ・北京市中关村四小
- ・北京市十一学校
- ・人大附中西山学校
- ・东莞市 寮步石步小学校
- ・广州市 荔湾区乐贤坊小学校
- 【香港】50校
- ・香港浸會大學附屬學校王錦輝中小學
- ・香港華人基督教聯合真道書院
- ・学習塾エビス epis
- ・賽馬會毅智書院
- ・東華三院郭一葦中學
- ・聖公會阮鄭夢芹小學
- ・聖保羅書院
- ・香港浸会大学
- ・香港加拿大国际学校
- ・浸信會沙田圍呂明才小學
- ・樂善堂余近卿中學
- ・中華基督教會灣仔堂基道小學
- ・佛教覺光法師中學
- ・循道中學高校
- ・漢華中學
- ・王肇枝中學
- ・新界喇沙中學
- ・華英中學
- ・荃灣聖芳濟中學
- ・聖芳濟各書院
- ・聖公會置富始南小學
- ・元朗朗屏邨惠州學校
- ・中華基督教會基金小學
- ・基督教聖約翰教會堅樂中學
- ・Delia Memorial School (Glee Path) District
- ・Chiu Ching Kwan
- 【台湾】180校
- ・桃園市 南坎國小
- ・桃園市 同德國小
- ・台北市立教育大學附小
- ・台北市濱江國中
- ・台南市 中山國中
- ・台南市 崇明國中
- 【タイ】
- ・タイ日本語学校 jeducation
- ・Khon Kaen University
- 【フィリピン】
- ・The Philippine Science High School
- 【アメリカ合衆国】
- ・McAllen Independent School
- ・West Whittier Elementary School
- 【スウェーデン】
- ・Östra skolan
- 【フィンランド】
- ・Ranta elementary school
- ・Katajan School
- 【オーストラリア】
- ・North Melbourne Grammar College
- ・Caulfield Junior College

塾・その他

- ・さわやかちば県民プラザ
- ・株式会社シー・エヌ・ディ
- ・株式会社NTT ドコモ 法人ビジネス戦略部
- ・ライアンス推進 沖縄振興推進室
- ・特定非営利活動法人でっかいそら
- ・グロースフォーシー
- ・進学塾ベルゲン
- ・大開進学教室
- ・学習塾ブリオーレ
- ・塾人社
- ・遼英ゼミナール
- ・株式会社 栄光
- ・国語専門塾 think

／まずは無料で使えます／

私立

0円



最大1年間完全無料！モデル校

「来年度の1人1台導入に先駆けて利用開始したい！」

「今年度の予算では難しいけど、今すぐ使いたい！」

ロイロノート・スクールは、そんな要望にお答えします！

私立学校を対象にしたモデル校制度。

導入初年度の1年間、無料でご利用いただけます。ユーザー数は無制限！

条件は半年に一度、授業実践レポートを提出いただくことだけ。

多くの学校が、モデル校で経験を積んでから正式採用に至っています。

公立

0円



自治体全校、1年間無料！

『とりあえずロイロ』キャンペーン

GIGAスクール構想で1人1台環境の整備をめざす自治体を対象として、
自治体全校、1年間無料でご利用いただけます。

条件は各校で実践レポートを1つご提出いただくことだけ。

GIGAスクール構想での環境整備や学びづくりにお悩みの自治体様、
次のWebサイト、左のQRコードからぜひお問い合わせください。

<https://scrapbox.io/loilo-teacher-support/> 「とりあえずロイロ」キャンペーン

0円



先生は永久無料！

ロイロノート・スクールは、生徒数に応じた料金設定を基本としています。
教員のみで使う場合は、ずっと無料で使い続けられます。

- ・自分の板書を撮り溜めて授業改善に利用
- ・先生同士で資料を共有
- ・学年会や教科会など先生同士の情報共有
- ・今日の授業で使う資料をあらかじめ準備しておく

などなど、教員用タブレットだけでもとっても便利に使うことができます。

今すぐお問い合わせください！



✉ sales@loilo.tv

豊富な実践事例や、使い方などはWebページをご覧ください

<https://help.loilonote.app/>



サポートページ

基本的な使い方、よくあるご質問、
実践事例や動画などをご紹介します。

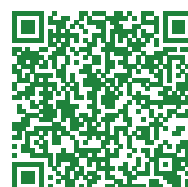
<https://help.loilonote.app/> オンライン研修のご案内 -5cef3a91539d1f0017b396d8



イベント・研修情報

ユーザー会やオンライン研修を開講しています。
参加費は無料ですので、ぜひお気軽にご参加ください。

<https://help.loilonote.app/> 授業案を検索する -602630326cb271001c1f19d7



最新の授業案はこちら

全国の学校から寄せられた、
豊富な授業案をご覧ください。

ロイロノート・スクール

授業実践事例&活用法 ―小学校・中学校用― 2020 Vol.1

2020年3月6日	初版第1刷発行
2020年6月3日	第2第1刷発行
2020年9月7日	第3第1刷発行
2021年2月26日	第4第1刷発行
2021年6月3日	第5第1刷発行

編集・発行 株式会社 LoiLo

〒231-0003

神奈川県横浜市中区北仲通4-40 商工中金横浜ビル5階

【お問い合わせメールアドレス】 loilo@loilo.tv

【ロイロノート・スクール製品Webページ】 <https://n.loilo.tv/ja/>

【コーポレートサイト】 <https://loilo.tv/jp/>

冊子作成にあたり、授業実践事例の作成にご協力をいただいた先生方に、
この場を借りて厚く御礼申し上げます。



自ら考え、仲間と学ぶ

ロイロノート・スクールは、すべての授業で使える
「思考力」「プレゼン力」「英語4技能」を育てる授業支援クラウドです！
先生の授業アイデアを、シンプルに実現することができます。

サポート・お問い合わせ

✉ loilo@loilo.tv

受付時間 9:00～18:00

土日・祝祭日は翌営業日以降の対応となりますので、
ご了承ください。

LINEからチャットでお問い合わせができます。

【LINE 友だち追加方法】

[@loilo] で ID 検索、
または右側の QR コードを
読み取り「友だち追加」を
してください。



最新の授業案はこちら

全国の学校から寄せられた、
豊富な授業案をご覧ください。



最新情報は Facebook、Twitter をチェック！

f [fb.me/loilonote](https://www.facebook.com/fb.me/loilonote)
t [@LoiLoNoteSchool](https://twitter.com/LoiLoNoteSchool)

ロイロノート・スクール サポートページ

ロイロノート・スクールのよくある質問・
イベント情報などをご紹介します。



<https://help.loilonote.app/>

困ったことがありましたら、
こちらをご覧ください。



開発・販売元
株式会社 **LoiLo**

〒231-0003 神奈川県横浜市中区北仲通 4-40 商工中金横浜ビル 5 階
Mail: loilo@loilo.tv